

SGホールディングスグループ
環境・社会報告書
Sustainability Report 2008



みんなで止めよう温暖化

「SGホールディングス」チーム・マイナス6%

Sustainability Report 2008

目次

- 1 …… トップメッセージ
- 4 …… SGホールディングスグループの概要
- 6 …… **特集**
SGホールディングスグループのバリューチェーン
- 10 …… SGホールディングスグループ国内事業体制
- 12 …… SGホールディングスグループ海外拠点
- 14 …… SGホールディングスグループについて
- 16 …… SGホールディングスグループのCSR体制
- 18 …… **安全活動報告**
エコ安全ドライブの取り組み
車両対策による安全への取り組み
安全な社会の実現を目指して
- 26 …… **環境活動報告**
地球温暖化防止への取り組み
輸送の効率化による環境対策
資源の有効活用
循環型社会を目指して
SGホールディングスグループ環境行動
自然との共生
環境啓発への取り組み
環境活動の推進体制づくり
- 42 …… **社会とのかかわり**
お客さまに向けて
従業員とともに
地域社会とともに
- 55 …… SGホールディングスグループ事業データ
- 56 …… 第三者保証報告書(クライメート・セイバース・プログラム)
第三者意見
- 58 …… 私たちがお届けしているもの

編集方針と報告範囲

■ 編集方針

1. 多くのステークホルダーにお読みいただけるよう、カラーユニバーサルデザインで編集しています。また、わかりやすい表現を心がけ、簡潔・明瞭に説明しています。
2. 環境省の「環境報告ガイドライン2007年版」を参考にしています。
3. 実績データは2007年度のものを集計しています。(活動内容については一部2008年度の内容も含まれます)
4. 取り組みの状況により、年間実績数値で報告できないものは対象期間を明示しています。

■ 報告対象期間

2007年3月21日～2008年3月20日

■ 報告対象組織

佐川急便の活動実績を中心に、SGホールディングスグループ企業と財団法人の活動を掲載しています。

■ その他情報提供手段

本報告書は、SGホールディングスWebサイトからもダウンロードできます。(http://www.sg-hldgs.co.jp/)

SGホールディングス株式会社 会社概要

SGホールディングス株式会社は、佐川急便株式会社をはじめとするグループの純粋持株会社として設立しました。

SGホールディングス株式会社は、グループ全体の「経営戦略策定・管理機能」を有し、各事業会社は、「業務執行機能」に特化する体制を整えました。この経営体制により、日々変化する社会からの要求に対し、意思決定のスピードを高めると同時に、グループの総合力を発揮することを可能にしました。

商号	SGホールディングス株式会社 (SG HOLDINGS CO.,LTD.)
設立日	2006年3月21日
事業内容	グループ経営戦略策定・管理並びに それらに付帯する業務
所在地	京都市南区上鳥羽角田町68番地
代表者	栗和田 榮一
資本金	113億8,300万円
決算期	3月20日



top message

ト ッ プ メ ッ セ ー ジ

SGホールディングスグループの中心的事業は産業や生活シーンに密接に関る「物流」です。私どもは物流業という社会インフラの一翼を担うという自覚をもち、お客さまの大切なお荷物を「お客さまの心とともに」お届けするサービスを通じて、社会貢献を果していきたいと考えています。また、輸送サービスは社会の交通安全や環境負荷と深い関わりをもつものであり、「安全と環境」は、当グループのCSRの根幹です。当グループは、安全・環境への取り組みを中心としてCSR活動を展開し、すべてのステークホルダーから選ばれる企業を目指して参ります。

SGホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長

栗和田 榮一

次の50年に向けて第一歩を切った 中期経営計画「SgH First Stage Plan」

2007年3月、SGホールディングスグループの中核会社である佐川急便は、創業50周年を迎えることができました。次の50年に向けてスタートを切った昨年度、私どもは創業の原点である「飛脚の精神(こころ)」を継承し、未来に向けて自らを進化・変革させていく第一歩を踏み出しました。

その具体的な取り組みが、グループ各社の事業基盤の構築・強化を目指した中期経営計画「SgH First Stage Plan」です。これは当グループの今後10年を見据えた「経営ビジョン」の礎となるものであり、初年度として確実なスタートを切ることができました。また、第二の柱として掲げたロジスティクス事業も、順調に推移しています。

SGホールディングスグループは、3PL(サードパーティ・ロジスティクス)を進化させ、「国内外一貫物流」の推進と「身近な物流のスペシャリスト」としての展開を強化しています。その背景には当グルー

プの事業の根幹にある「顧客第一主義」をさらに追求し、個々のお客様と真摯に向き合うという思いが込められています。3PLは、データマネジメント、品質管理、最新のインフラ等により物流の継続的改善を行うものです。当グループでは、お客様の利便性を最大化するサービスの提供に、今後も邁進して参ります。

物流事業者としての責任を果す 環境保全活動への取り組み

物流事業者は、交通安全へのリスクや環境への負荷を避けることはできません。そのことを自覚し、安全の確保と環境保護に取り組むことは、当グループの社会的責任です。特に地球温暖化に影響を及ぼすCO₂の排出量削減は重要なテーマであり、当グループでは、貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道・船舶へと切り替える「モーダルシフト」を推進しています。特に交通量が多い東京-大阪間では、輸送量の約10%をスーパーレールカーゴでの輸送に切り





替え、CO₂排出量を大幅に削減しています。

地球環境問題は、今日の物流業に課せられた大きなテーマであります。ただし、一企業の努力だけでは限界があります。国レベル、地球レベルでの目標達成のためには、消費者一人ひとりの意識改革や行動も重要だと考えます。国や自治体が主導となった、企業と消費者を巻き込んだ環境活動が希求されている中、当グループでは定期的にステークホルダー・ダイアログを開催し、社会との対話を進めています。

社会との対話から誕生した 業界初の消費者参加型サービス

企業と個人が手を組み、社会に貢献できるサービスとして生まれたのが、「宅配便エコポイント制度」や、「CO₂排出権付き飛脚宅配便」などの新たなサービスです。「宅配便エコポイント制度」は、ポイント制度を利用して、再配達削減に対する社会喚起を促す実験的なサービスです。また「CO₂排出権付き飛脚宅配便」は、お客様にCO₂排出権購入費の一部を負担していただき、佐川急便も同等額を負担することでCO₂排出権を日本政府に無償譲渡するという、国内業界初のサービスとして誕生しました。これらはお客様とのコミュニケーションの中でいただいた「環境保護に関心はあるが、貢献の方法が分らない」という声に、当グループが何かお手伝いできな

いかと試行錯誤して誕生した新たな試みです。

「出る杭は伸ばす」を貫き 自らを進化・改革する企業姿勢

当グループでは社会からの信頼と共感を得る為に「企業理念・行動憲章」を定め企業活動を行ってきました。2008年3月、この精神を全社員がより強く意識し実現していくための「倫理・行動規範」を制定・施行し倫理法令順守体制フローを完成いたしました。1992年の社長就任以来、発信しつづけてきた「出る杭は伸ばす」というスローガンを掲げ、社内の求心力を高めると共に、変化を怖れず新たな挑戦に向かう企業姿勢と、自由闊達な企業風土の醸成、さらに倫理法令順守体制の確立に、グループ役員ならびに全社員の良識と責任ある行動で社会との共生と調和を図りながら企業の進化・変革に引き続き取り組んで参ります。物流のシステムやテクノロジーがいくら進化しようとも、物流の基本は人と人であり、当グループにとって人財（社員）こそが財産です。またその社員を支えているのは、ご家族の方々です。

特に環境活動には、社員一人ひとりの理解と協力が必要です。社内のコミュニケーション、ご家族とのコミュニケーションには今後さらに重きを置き、「安全・環境」を根幹とする、SGホールディングスグループのCSR活動の考え方を、浸透させていきます。



【SGホールディングスグループの概要】

SGホールディングスグループは、宅配事業を中心に、物流とその周辺のさまざまな事業を通じて、ステークホルダーの皆さまとかがわり、社会に貢献できる企業グループを目指してまいります。



Next Field...

金融
事業

施設管理
事業

その他
事業

車両販売
/ 整備
事業

人財開発
事業

システム開発
事業

SgH

ロジスティクス
事業
(国内)

国際貨物
事業

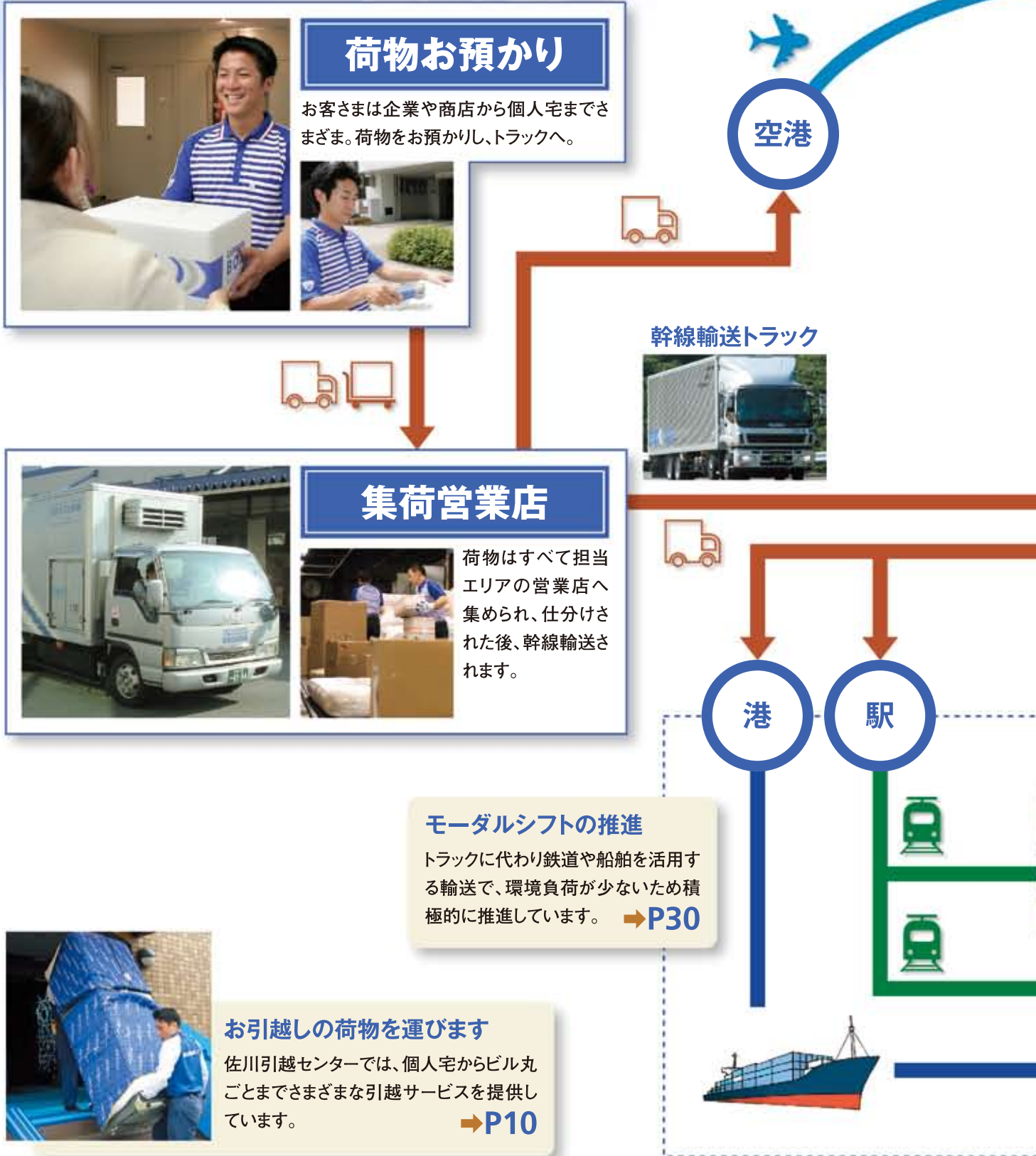
ロジスティクス
事業

国内航空
事業

ロジスティクス
事業
(海外)



SGHグループの総力を結集し 飛脚の精神(こころ)と最新の物流システムで お客さまのお荷物を大切に運ばせていただきます。





空港

集約センター(ハブセンター)

荷物は各営業店向けに細かく仕分けされた後、幹線輸送トラックに。仕分けでは、1時間に2万個もの荷物を処理する高性能の自動仕分けシステムが活躍します。→P32



配達営業店

営業店に運ばれた荷物は、さらに細かなエリアで仕分け。セールスドライバーは、自分の担当エリアの荷物をトラックに積み込みます。



スーパーレールカーゴ

JR貨物と共同開発した特急コンテナ電車。モーダルシフトによりCO2の削減と、安定した輸送時間の確保を可能にしました。→P30



駅

港





KEY AIRLINE



世界へ

～グループの総合力で“大切に運ぶ”を実現します～



荷物の場所を追跡します

荷物が今どこにあるのかを調べられる貨物追跡システムの開発・運用を行う佐川コンピューター・システム。グループの情報システム関連のシンクタンク企業です。→P11



車両整備で安全を守ります

佐川ギャラクシーモーターズでは、荷物を届けるために欠かせないトラックのメンテナンスやボディー（荷台部分）の製造を手がけています。→P11

総合サービスでサポートします

保険代理店業・施設管理事業・人財派遣事業などを中心に事業を展開しているのが佐川アドバンス。総合サービスでお客様の事業運営をサポートします。→P11



お届け先

お届け先に到着。指定時間通りにお届けできました。



サービスセンター

商業地区・オフィス街など、交通量の多い地域などで車両を使用しない小規模デポを活用することで、環境負荷低減を図ります。→P32



カード決済も処理します

「玄関でカード払い!」を可能にしているのが佐川フィナンシャル。e-コレクトで回収した代金の振り込みや、カード決済の処理業務を行っています。→P11





アジアへ

国際輸送

世界各国へ

信頼出来る世界の提携パートナーとのグローバルネットワークにより国際宅配便や国際輸送に関するさまざまな業務を展開。国際宅配便サービス「sgx」は、世界220以上の国や地域をDoor To Doorで結んでいます。 →P12



海外拠点(アジア)

急激な経済発展が進行する中国などアジア地域を中心に、グループの海外法人が拡大。国際宅配便や国際輸送に関するさまざまな業務を展開しています。 →P12



世界各地へ荷物を運ぶ

国際貨物や国内航空貨物を取り扱い、国際貨物の通関業も手がけているのが佐川グローバルロジスティクス。国際物流全般のソリューションを拡充します。 →P11

SGホールディングスグループ国内事業体制

佐川急便をはじめとする国内事業体制により、お客さまに安心と信頼をお届けします。

国内事業会社の事業概要

佐川急便

佐川急便は、SGホールディングスグループの中核会社として、宅配便事業の強化・拡大に加え、グループ各社と連携し、物流のトータルソリューションを提供しています。1日の荷物取扱個数は、通常期で約450万個、繁忙期になると600万個を超え、膨大な荷物を迅速・確実・丁寧に運んでいます。また、地球環境に直接的な影響を与える業種であるからこそ、地球環境保全に積極的に取り組んでいます。これからもお客さまによるこぼれるサービスを提供し、社会から選ばれる企業となれるよう、荷物と真心を運ぶ現代の飛脚として事業を展開していきます。



佐川引越センター

国内16カ所に事業所を設置し、全国1,700の協力会社と提携して、365日24時間営業体制で引越輸送サービスや日本全国の貸切輸送車両の手配、佐川急便では輸送が困難な特殊な商品・美術品などの輸送を行っています。また、このたび「家電リサイクル券」取扱優良店としての推奨を受けることができました。これからも、お客さま個別の輸送システムを開発するなど、お客さまのニーズに合わせた最善の物流環境をご提案し、満足いただけるサービスを提供できるよう努めていきます。



佐川グローバルロジスティクス

国内外のネットワークを活かしたグローバルなロジスティクスサービスを通して、お客さまのビジネスを支えています。これまで培ってきたロジスティクスにおけるノウハウと、グローバルなネットワークを有機的に組み合わせ、アジア・ASEAN地域をはじめ、北米、欧州におけるネットワークを活用し、国内のみならず国際物流全般のソリューションを拡充していきます。

佐川グローバルロジスティクスは、ロジスティクスを経営戦略上の重要な課題とお考えになるお客さま全てのご要望にお応えし、お客さまとともに進化し続け、お客さまと社会に貢献できる企業を目指していきたいと考えています。



佐川フィナンシャル

SGホールディングスグループの代金引換サービスである「e-コレクト」決済事業を中核とした多様な金融サービスを提供しています。

2000年より開始した「e-コレクト」サービスは、従来の現金に加えクレジットカードおよびデビットカードによる決済を可能にしたことが消費者から支持をいただき、通販市場の拡大ともあいまって、取扱い件数、決済金額ともに極めて順調に成長してまいりました。(2007年度実績：年間約1兆1千億円)

また、2008年4月より、ネット決済サービスを開始し、代引きも含めた総合決済代行サービスが提供できるようになりました。これにより、既にe-コレクトサービスをご利用いただいている通販事業者さまはもとより、さまざまなe-コマース事業者さまの決済ニーズに対応できる本格的な決済サービスを提供していきます。



佐川アドバンス

SGホールディングスグループにおける「総合サービス企業」として、現在では、保険代理店業・旅行代理店業・施設管理事業・商品開発事業・人材派遣事業を主軸に、さまざまなサービスを提供し、着実に実績を重ねてきました。

また、2007年8月には、より一層のIT化が進む社会環境に対応するため、移動体通信無線基地局のインフラ整備事業を行う子会社SGモバイルサポートを設立しました。さらに2008年4月には、通販事業「カットコット」を立ち上げ、すべてのお客さまのニーズにお応えしていきます。

これからも社名のADVANCE（前進・進歩）に込められた進取の気風と心意気を失わず、新たな市場や事業に挑戦していきます。



佐川コンピューター・システム

SGホールディングスグループにおける情報システムのコンサルティング、構築、運用・管理を担う一方で、お客さまの要望を的確に捉え、経営的・戦略的観点を持って、お客さまを第一に考えたシステムやソリューションを提供する“情報戦略のシンクタンク企業”として歩んできました。これまでに、各種業務システムのIT化を企画から運用に至るまで一手に担った実績と、そこで蓄積した技術やノウハウを活かし、お客さまの業務改善への要望にITでお応えしてきました。これからも、物流業界だけにとどまらず、幅広い分野のお客さまへ実務に直結したソリューションを提供し、満足いただけるよう努めていきます。



佐川ギャラクシーモーターズ

SGホールディングスグループをはじめ、全国の一般ユーザーさまが使用する自動車の車検・点検整備、各種自動車の新車・中古車販売および車両ボディーの製造など、自動車に関する幅広い経験とノウハウでお客さまの要望にお応えする、トータルカービジネス事業を展開しています。国内に指定整備工場を15工場、認証整備工場を6工場、ボディー製造工場を2工場配置し、全国ネットのサービスを実現しています。また、地球環境保全への取り組みとして開発した、環境配慮車両ボディー「ECO車体」は、導入累計6,000台を突破するなど、カービジネス事業における環境活動を積極的に実践しています。



- SGモバイルサポート株式会社
- SGリアルティ株式会社
- 株式会社ヌーヴェルゴルフ倶楽部
- 佐川林業株式会社

財団法人

- 財団法人佐川留学生奨学会
- 財団法人佐川国際経済協力会
- 財団法人佐川がん研究助成振興財団
- 財団法人佐川美術館

外郭団体

- SGホールディングスグループ健康保険組合
- SGホールディングスグループ企業年金基金

SGホールディングスグループ海外拠点

ダイナミックに変化し続けるアジア地域において、国内で培ったノウハウを拡大し、アジア地域における物流インフラ構築のサポートをしています。

日中間の国際宅配便事業

日本の約26倍の面積を持つ中国。この広大な中国全土に集配ネットワークを持つのが、業務提携先である中国速通サービス会社です。

佐川グローバルエクスプレス（現・佐川グローバルロジスティクス）は、国際宅配便のサービス強化を目指して中国郵政傘下の宅配会社である中国速通サービス会社と2006年

12月に業務提携協議書を締結。中国発日本向けの国際宅配便の運用を開始しています。また、日本発中国向けの国際宅配便である佐川ブランドのサービスは、上海をはじめとした各都市でトライアルが行われており、着実にサービスの基盤を固めつつあります。

中国から日本へ送る場合

**集荷：現地法人
中国速通**



中国速通サービス会社が行います。



CHINA EXPRESS



日本へ

集荷された荷物は、海外法人に引き渡されます。例えば、上海で集荷した荷物は、上海保利佐川物流有限公司に引き渡されます。そして、ここから日本へ送られます。

**配達：佐川急便
佐川グローバルロジスティクス**



日本に到着した荷物は、佐川グローバルロジスティクスへ引き渡されます。そして、佐川急便が配達を行います。

日本から中国へ送る場合

**集荷：佐川急便
佐川グローバルロジスティクス**



佐川急便と佐川グローバルロジスティクスが集荷し、佐川グローバルロジスティクスが中国に送ります。

Sx
signature global express



中国へ



配達先の海外法人に届いた荷物は、中国速通サービス会社に引き渡されます。

配達：中国速通



中国速通サービス会社が配達を行います。

グループの海外展開

①天津保利佐川国際貿易有限公司



貿易業務やフォワーディング^{※1}事業を中心に展開。また、自社で所有する保税倉庫で金属部品や車などの保管代理業務を行っています。

⑦台湾佐川急便国際股份有限公司



倉庫物流業、海上運輸業、クーリエ事業などの事業を展開。また自社トラックによる台北地区での小口集配業務も行っています。

⑩佐川急便マレーシア株式会社



フォワーディング事業を中心に展開。現地のスタッフのみで構成されており、地元へ根差したサービスを展開しています。

②上海大衆佐川急便物流有限公司



上海市内の宅配便事業を主に展開しています。取り扱う荷物は通販の商品が多く、代引きサービスも提供しています。

⑧佐川急便フィリピン株式会社



トラック輸送を含めた総合一貫輸送を担います。また日本の政府開発援助に必要な建材などの重量物の輸送も取り扱っています。

⑫佐川急便シンガポール株式会社



フォワーディング事業、クーリエ事業を中心にを行っています。クーリエは、2007年10月より自社での集配を行っています。

③上海保利佐川物流有限公司



クーリエ^{※2}事業やフォワーディング事業、またお客さまの要望に合わせた3PL^{※3}事業などを中心に展開しています。

⑨佐川急便ベトナム



フォワーディング事業からトラック輸送までの一貫した輸送サービスを提供。保税倉庫を持ち、物流加工事業なども行っています。

⑬佐川急便インドネシア株式会社



フォワーディング事業をはじめ、倉庫業、クーリエ事業などを展開。ジャカルタ近郊の日系企業を中心にサービスを展開しています。

④保利佐川物流有限公司



フォワーディング事業や物流加工事業などが中心。北京、大連、天津、青島、広州に分公司と呼ばれる営業拠点を置き、展開しています。

⑩佐川急便タイ・コンテナ・ディストリビューション・サービス株式会社



21,000m²の自社倉庫を利用した倉庫・保管業務をはじめ、フォワーディング事業、クーリエ事業を行っています。

⑭佐川急便ハワイ株式会社



日本人観光客が購入する土産物の輸送に関するオペレーション業務を行っています。
※ ライセンス契約を交わす現地企業への業務委託

- ①保利佐川物流有限公司 北京分公司
- ②保利佐川物流有限公司 大連分公司
- ③保利佐川物流有限公司 天津分公司
- ④保利佐川物流有限公司 青島分公司
- ⑤保利佐川物流有限公司 広州分公司

⑤佐川急便(香港)有限公司



フォワーディング事業をはじめとし、倉庫ロジスティクス、輸送、クーリエ、引越しの各事業展開を行っています。

⑥佐川急便 코리아株式会社



韓国国内の輸送業務を中心に展開。その範囲は主要都市圏全域に及びます。クーリエ事業や倉庫業も行っています。



※1 フォワーディング……国際事業における輸出入にかかわる輸送や税関手続などの代理業
 ※2 クーリエ (国際宅配便) ……国際航空便を利用して、書籍や小荷物などを短時間で送るサービス
 ※3 3PL……企業の流通機能全般を一括して請け負うアウトソーシングサービス

SGホールディングスグループについて

SGホールディングスグループは、企業活動における業務の適正を確保するための体制づくりと法令遵守体制の再構築を図るため、「企業理念」「行動憲章」の改正と「倫理・行動規範」を制定し、全社で取り組んでいます。

SGホールディングスグループ企業理念

SGホールディングスグループは、佐川急便の創業の原点である「飛脚の精神(こころ)」を継承するとともに、人権の尊重および、法令の遵守をもって公正且つ自由な企業活動を行います。

「飛脚の精神(こころ)」とは「迅速・確実・丁寧」をモットーに、

- 一. 顧客第一主義に徹する
- 一. 地域社会の発展に奉仕する
- 一. 責任と誠意を使命とする

SGホールディングスグループ行動憲章

——社会の信頼と共感を得るために——

(責任規定)

経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し率先垂範の上、グループ企業をはじめとする関係者に周知徹底させ、実効のある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。また、本憲章に反する事態が発生したときには、自らが問題解決にあたる姿勢を内外に表明し、原因究明、再発防止に努めます。

(共同宣言)

SGホールディングスグループの全ての経営者および、社員は、いかなるときでも一致団結して次の原則を実践するために、責任をもって行動します。

(行動原則)

- 1 社会的に有用なサービス・製品を安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分配慮して開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得する。
- 2 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
- 3 国際的な事業活動においては、国際ルールやその国の法律の遵守はもとより、文化や慣習を尊重し、その地域の発展に貢献する経営を行う。
- 4 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動する。
- 5 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。
- 6 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決する。
- 7 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
- 8 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。

SGホールディングスグループ倫理・行動規範

私たちは、「SGホールディングスグループ行動憲章」を具体的に表現した本倫理・行動規範に則り行動します。

- 1 私たちは、顧客第一主義に徹して考え行動します。
- 2 私たちは、地域社会の発展に奉仕する事を考え行動します。
- 3 私たちは、公明正大に、責任と誠意をもって考え行動します。
- 4 私たちは、自分と職場の人たちの成長、よりよい仕事ができる職場づくりを考え行動します。

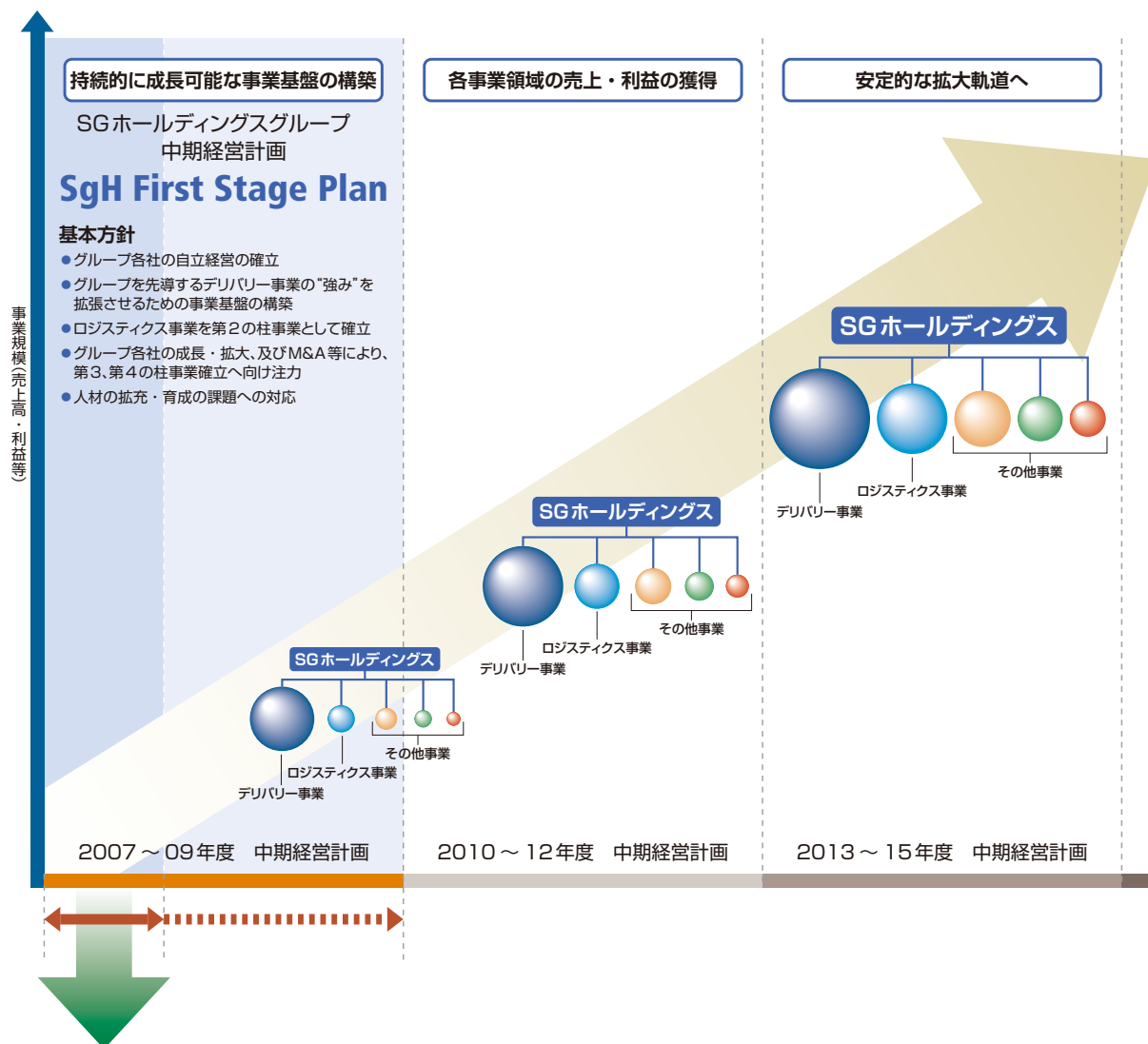
SGホールディングスグループ統一スローガン

安全 環境 そしてサービス
すべての品質を世界標準へ。

SGホールディングスグループ経営ビジョンと中期経営計画

「グループ各社が、それぞれの事業基盤を築き、新たな価値を創出する」

顧客ニーズの変化、市場環境の変化に迅速に対応し、未来永劫繁栄すべく変革・挑戦し続け、新たな「価値」を創造し、第2、第3、第4の柱となる事業を確立することに取り組みます。



■中期経営計画『SgH First Stage Plan』の初年度としての結果

●営業収益・各セグメントとも事業基盤の強化を進めながら順調に推移

※2008年3月期決算結果 売上高8,894億円 営業利益364億円

●最終年度の目標達成に向けて計画どおり進捗。グループの第2の柱事業であるロジスティクス事業の進展、その他事業では将来の事業に積極的に進出

SGホールディングスグループのCSR体制

SGホールディングスグループのCSR（企業の社会的責任）として、「SGホールディングスグループ行動憲章」を制定し、グループ全社のCSR体制整備に取り組んでいます。

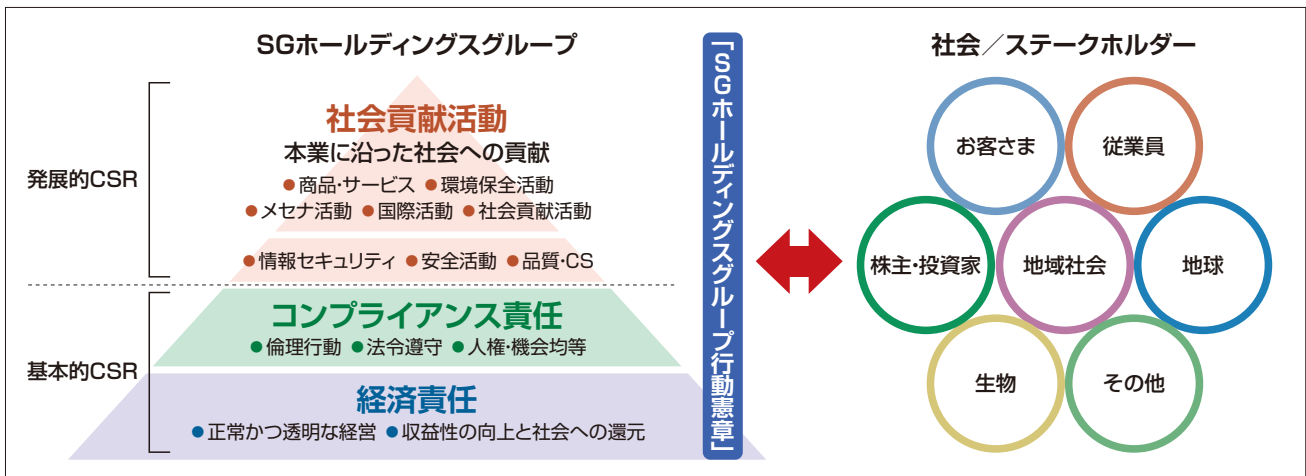
CSRの基本概念

CSRを果たすことは、多様化・高度化する社会からの要請や期待にこたえるための適応力であり、企業の信頼性の確保に努めるものと考えています。

当グループのCSR概念として、「基本的CSR」と「発展的CSR」の2つがあり、企業活動が存続するための「法令

遵守」などは必須事項として、基本的CSRと捉えています。この基本的CSRの上に、顕在化するさまざまな社会からの期待や要請に対応し、貢献していくための発展的CSRがあります。この2つの柱でCSRを成り立たせるものと考えています。

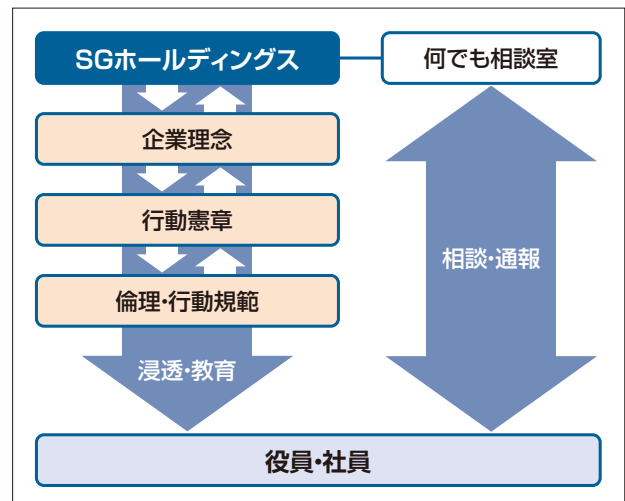
● SGホールディングスグループ CSR基本概念図



CSR推進体制・「倫理・法令遵守（コンプライアンス）体制」への取り組み

CSR委員会は、「SGホールディングスグループ行動憲章」の実践を目指して、グループ全体の経営に反映すべく管理体系の構築と、継続的改善活動を推進することを目的としています。2007年度より「基本的CSR」の抜本的な整備に向け、グループの「企業理念」「行動憲章」を統一するとともに、SGホールディングスグループ「倫理・行動規範」を策定し、当グループの企業活動と、働く全社員の行動によって築く「倫理・法令遵守体制」の実効性のある体制整備に向け取り組んでいます。

● SGホールディングスグループ 「倫理・法令遵守体制」大綱



内部統制システムの基本方針（概要）

SGホールディングス株式会社は、グループの企業活動全般にわたり、企業としての社会的責任を果たし、株主をはじめとするステークホルダーの信頼を得るために、不祥事を防止し、業務執行の有効性・効率性、法令の遵守および財務報告の信頼性を確保するための内部統制システムを構築することが必要不可欠であり、本方針を以下のとおり定めています。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 業務執行体制 | 6 企業の社会的責任 |
| 2 情報の取り扱い | 7 業務遂行体制に関する事項 |
| 3 財務面の統制 | 8 監査体制に関する事項 |
| 4 業務執行に関する情報の保存および管理 | 9 取締役および従業員の監査役への報告体制 |
| 5 リスク管理の原則 | 10 内部監査体制 |

コンプライアンス経営を強化し、社会からの信頼回復を目指します

違法な労働派遣に対する再発防止について

佐川グローバルロジスティクス（株）において違法な派遣労働がありました。

● 概要・経緯

佐川グローバルロジスティクス（株）は、静岡県下において、お客さまから受託した流通加工業務を他の人材派遣会社から受け入れた派遣スタッフを使用して行なっていました。同社は、関係当事者と適切な契約を締結するとともに、同社社員を現場責任者として配置していました。しかしながら、実態としては現場責任者である同社社員を経由せず、派遣労働者を供給先であるお客さまの指揮命令の下で倉庫内における仕分け等の業務に従事させていたことが判明し、同社は東京労働局から平成20年1月に労働者派遣事業改善命令を受けました。

● 対応・再発防止対策

同社は改善計画を東京労働局に提出し、是正に向け速やかな対応に努めています。また、SGホールディングスグループ全社は、他の人材派遣会社からスタッフを受け入れている業務の実態調査を実施し、人材派遣会社との契約内容を再確認するとともに、法に則った労働者派遣の実施を徹底することで、再発防止に努めます。

路上パーキング不正使用に対する再発防止について

佐川急便（株）において、路上パーキングの不正使用がありました。

● 概要・経緯

佐川急便（株）の従業員4名は、路上パーキングメーターを不正に操作し、長時間トラックを駐車しておりました。警視庁は、同4名を（財）東京交通安全協会の業務を妨害したとして平成19年11月に書類送検しました。

● 対応・再発防止対策

同社は、全営業店に対して路上パーキングメーターの利用状況を調査するとともに、従業員に対して路上パーキングメーターの適切な使用についての指導・監督の強化を徹底しました。今後も再発防止に努めるとともに、公共の道路を使用して事業を営む事業者として、駐車スペース問題への対策強化に努めます。

SGホールディングスグループでは、今回の事態を厳粛に受け止め、コンプライアンスのさらなる取り組みを強化し、グループ一丸となって再発防止に取り組んで参ります。

安全活動報告

～安全はすべてに優先する～

トラックを使用して事業を営む企業として、安全はすべてに優先するテーマです。安全な社会の創造を目指し、事故を未然に防ぐこと、子どもや高齢者を危険から守る取り組みを展開しています。

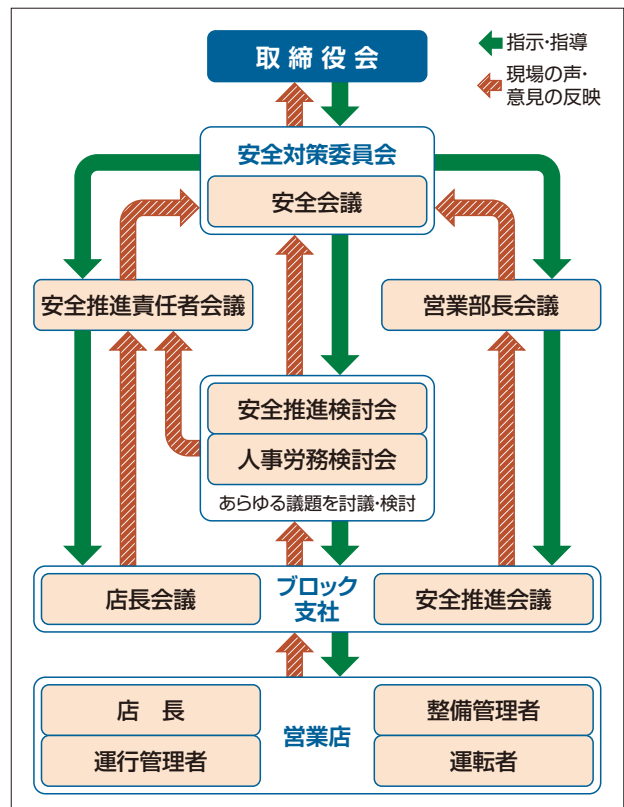


安全管理体制

2006年10月、貨物自動車運送事業法が改正され、「絶えず安全性を向上させる」ことを目的に運輸安全マネジメント法制が制度化されました。佐川急便では、安全確保を経営の最重要課題として進めるため、安全対策委員会を設置。委員長には代表取締役が、副委員長には安全統括管理者と取締役が就任。また、委員には支社長があたります。

安全対策委員による安全会議を毎月開催し安全活動の進捗状況をはじめ、トップが安全にかかわるさまざまな課題を討議しています。また、支社の安全推進担当責任者による検討会も定期的に行われ、現場の意見を反映した安全対策の考案や改善を検討しています。ドライバーの拠点である営業店には、安全推進職を配置し、円滑なコミュニケーションを図ることで、ドライバーが安心して乗務できる環境を整えることを、安全運転管理の基本として活動しています。

●安全管理組織体制図



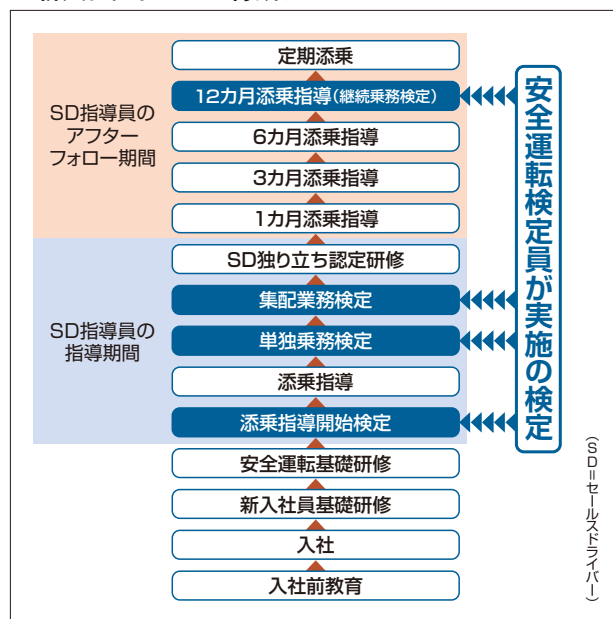
ライセンス制度導入による安全性の向上

交通事故を起こさないドライバーの育成を目指して、指導者の認定を行う「佐川ライセンス制度」を導入しています。安全にかかわる認定では「SD指導員」と「安全運転検定員」があり、「SD指導員」は新人ドライバーの育成にマンツーマンにあたります。また、「安全運転検定員」は新入社員の最後の独り立ちの認定や、現職の再乗務にかかわる最終検定を行います。現在SD指導員は7,501名、安全運転検定員は1,852名が認定を受けています。

※2008年3月21日現在



●新人ドライバーの育成フロー



ドライバーコンテストで交通安全の頂点を目指す

1993年より「佐川急便全国ドライバーコンテスト」を開催しており、知識の習得状況や、安全・環境に配慮した運転技術、日常点検の技量を競いあっています。15回目となる大会を2007年6月に開催し、全国から選抜された100名のドライバーが参加しました。

また、10月の(社)全日本トラック協会が主催する「第39回全国トラックドライバー・コンテスト」には41名が参加。11トン部門、女性部門で優勝。入賞者は11名となりました。これらのコンテストに参加した社員は、佐川ライセンスの認定を始め、後継の指導にあたってまいります。

●全国トラックドライバー・コンテスト入賞者

部門	順位	氏名	所属	代表地区名	合計得点	備考
2トン	3	高久 努	栃木店	栃木	968	
	4	水野 秀一	名東店	愛知	966	
	5	染野 康	つくば店	茨城	963	
4トン	3	高貝 優一	大曲店	秋田	965	
	4	木村 茂久	守山店	滋賀	953	
11トン	1	関川 洋光	八戸店	青森	955	警察庁長官賞
女性	1	山崎 奈津美	東京店	東京	946	警察庁長官賞
	2	奥山 淳子	山形店	山形	945	
	3	吉田 瑞恵	札幌店	北海道	936	
	4	澁谷 麻美	南さつま店	鹿児島	928	
	5	岩田 恵美子	大阪鶴見店	大阪	918	
全日本トラック協会長特別賞		寺町 康之	京都店	京都	—	



Voice

全国トラックドライバー・コンテスト 女性部門で見事優勝!

安全運転に関しては女性も男性も関係ないと思っています。今後、この大会で得た経験を生かし、周りの皆さんの安全意識を高めていけるような立場で、頑張っていきたいと思っています。

佐川急便 東京店 山崎 奈津美



女性ならではのきめ細かいサービスを提供し、すべてのお客さまに選ばれる女性ドライバーを目指してまいります。

佐川急便 弘前店 奈良岡愛



エコ安全ドライブの取り組み

安全運転とエコドライブには共通点が多いことに着目し、安全かつ環境にもやさしい独自の運転方法「エコ安全ドライブ」を推進しています。

エコ安全ドライブの推進

エコ安全ドライブとは、急発進、急加速や急停止などを発生させない環境にやさしく安全な運転をいい、佐川急便では、ドライバー全員に「エコ安全ドライブ」を指導し、励行しています。

この「エコ安全ドライブ」は発進時やギアチェンジの際の運転技術の向上と、エンジンの回転数の上限設定をするこ

とによって、環境はもちろん、安全意識の向上につながる他、燃料費なども抑制でき、「安全」「環境」「経営」とさまざまな成果が得られます。また、「エコ安全ドライブ」をより定着させるため、知識と技術を習得した指導員の育成にも取り組んでいます。



2007年度は12回のエコ安全ドライブ研修を開催し、286名が受講しました

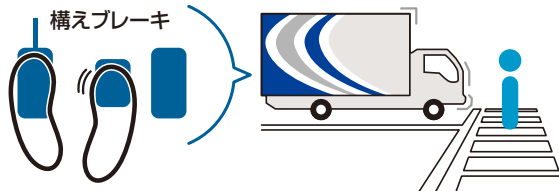
● エコ安全ドライブの例

ふんわりアクセル『eスタート』の実践

エコ安全ドライブの最重要課題は「発進・加速」です。これが定着できれば、燃費の向上はもちろん安全性の向上にも最大の効果が得られます。



発進時に自然と車間距離をとることができ、確実な安全確認が可能になります。



構えブレーキを併用することで、万が一の場合でもすぐに停止できます。

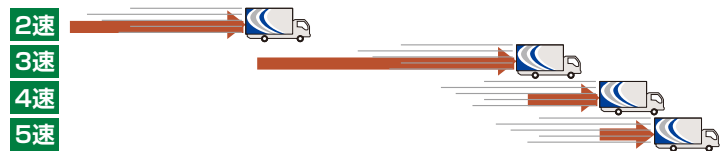
シフトアップは早めに操作

早め、早めのシフトアップを実践すれば、加速時のアクセルの踏み込みが浅くなり、ブレーキをかける際の制動距離*も短くなる上、加速時も自然と十分な車間距離が確保できます。

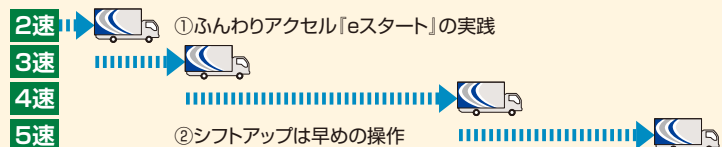
*ブレーキペダルを踏んで停止するまでに車が進む距離。



従来の加速重視の発進



やさしい運転、燃費を向上させる発進・加速



アイドリングストップで排出ガス削減に貢献

佐川急便では、アイドリングストップを1997年から全車両で実施しています。アイドリングストップは、「エコ安全ドライブ7ヶ条」に含まれており、お客さまへの配達・集荷でドライバーが車から離れる際や、営業店での荷物の積み降ろし作業中は、キーを抜きエンジンを停止させています。

これにより、無駄な燃料消費を防ぎ、CO₂やNOx※1、PM※2などを含む排出ガスの抑制を実現しています。1日に2時間のアイドリングストップを全車両で実行した場合、1年間（300日換算）で約2.4万トンのCO₂排出を抑制し、約10億円の燃料費を削減しています。また、車両後部には啓発ステッカーを貼付し、他のドライバーにもエコドライブを呼びかけています。

※1 Nitrogen Oxide:窒素酸化物（光化学スモッグや酸性雨などを引き起こす大気汚染原因物質とされる）

※2 Particulate Matter:粒子状物質（ぜんそくや気管支炎を起こすとされる）

■エコ安全ドライブ7ヶ条

エコ安全ドライブで特に重要とされる7つの項目に絞り、「エコ安全ドライブ7ヶ条」を設定しています。社員手帳への掲載やポスターの掲示を行い、全従業員への啓発と定着を図っています。

また、「エコ安全ドライブ7ヶ条実践マニュアル」ビデオを活用し、営業店ごとに指導を実施することで、従業員に深く浸透させています。



キーチェーンを装着しています



車両後部のステッカー



啓発ポスター

研修施設

佐川急便では、ハンドルを握るドライバーの徹底した育成・指導を実施するため、東北・関東・中京・四国地区の国内4カ所に、運転教習コースを備えた実践的な研修施設を保有しています。運転実技指導には見通しの悪い交差点など実際の市街地に近いコースを再現し、公道における安全の確保について効果的な指導を行っています。



佐川急便豊橋研修センター

Voice

安全運行確保のために協力し合う

佐川急便が長年行っている「全国ドライバーコンテスト」は交通安全意識の涵養（かんよう）やエコドライブによる環境保全対策として称賛すべき取り組みであると考えています。

当機構も平成20年度から、インターネットを利用して社内で業務の合い間に受診できる新適性診断システム「ナスバネット」を導入し、この利用を通じて佐川急便の一層の安全運行確保に役立てていただけることを期待しているところです。

独立行政法人 自動車事故対策機構
安全指導部長 笠原 晃様



引越業界のトップを目指していきたいです。

佐川引越センター株式会社 東京支店 石塚健一



車両対策による安全への取り組み

交通事故につながる車両不備を未然に防ぐため、万全な車両管理体制で、安全への取り組みを推進しています。

徹底した車両整備により事故発生を抑制

SGホールディングスグループが保有するすべての営業用車両の整備を徹底することで、車両不備による事故の発生を未然に防ぐとともに、十分な点検整備が環境負荷低減につながっています。

車両運行前に乗車するドライバーが必ず日常点検を行うだけでなく、車両整備計画に基づき、3カ月点検および12カ月点検を実施しています。また、当グループの車両整備を担う佐川ギャラクシーモーターズおよび協力工場では、2万台を超える車両の整備を担当しており、標準化された点検整備項目を確実に実施することで、車両不備による事故撲滅に取り組んでいます。

● 佐川ギャラクシーモーターズ車両整備ネットワーク



交通事故を未然に防止するためドライブレコーダーを導入

佐川急便では、より効果的な安全運転指導を行うため、ドライブレコーダー（安全運転記録装置）を導入しています。ドライブレコーダーは、運転中の急ブレーキや危険な挙動をもとに、前後の映像が記録できる他、1分ごとにカメラで撮影した写真を記録する機能を備えています。ドライブレコーダーの導入により、ドライバーの運転特性が把握できるとともに、客観的な運転評価ができるようになりました。また、模範となる運転ができるドライバーを讃えることも可能となりました。

■ ヒヤリ・ハット体験を安全教育に有効活用

運転中に「ヒヤリ、ハット」とした体験などが記録された危険映像を、ドライバー教育にも活用しています。また、参考になる映像をドライバーが共有し、ともに安全対策を考えるなどのディスカッションにも活かされています。

■ 安全運転へつながる運転診断

ドライブレコーダーでは運転特性を5項目に分けて診断し、数値化して評価しています。これにより日頃の運転行動や弱点が把握でき、課題を克服できる的確な指導が可能です。数値化することによってドライバーは高得点を目指し、意欲的に安全運転に取り組むようになりました。



ドライブレコーダーによるヒヤリ・ハット画像



運転診断結果表

幹線輸送の安全確保

佐川急便では幹線輸送の安全確保と、協力会社を含めたドライバーの志気の向上を目的にさまざまな取り組みを行っています。

■ 幹線輸送全国一斉安全パトロール

長距離運行をする幹線輸送ドライバーの交通事故と車両故障の未然防止を目的に「佐川急便幹線輸送全国一斉安全パトロール」を毎年実施しています。

2007年4月6日から7日にかけて行われた安全パトロールでは、全国主要高速道路のサービスエリア、パーキングエリアと一部営業店を含む44カ所で、佐川急便および、幹線輸送を担う協力会社の運行管理者、整備管理者などの協力を得て、計789名の管理者がドライバーの健康状態の確認や安全運行を呼びかけました。

また、日常点検基準に準じた車両点検を実施した他、日頃の感謝の意を込めて環境保全活動の一環である実施場所の清掃活動を行いました。



安全パトロールポスター



パトロールのようす

■ 幹線輸送協力会社 安全セミナーの開催

幹線輸送協力会社の経営者を招き、「幹線輸送における安全対策について」と題してセミナーを開催しました。国土交通省、警察庁、自動車事故対策機構から講師を招き講演を賜りました。参加した約300名の経営者は安全対策の取り組みを真剣に学ぶとともに意見交換を行いました。



■ 幹線輸送全国一斉ターミナル点検

ドライバーの安全意識の向上を目的に、営業店やハブセンターに配車された幹線ドライバーへの激励や日常点検を行う「佐川急便幹線輸送全国一斉ターミナル点検」を年2回実施しています。佐川急便の全拠点では、店長をはじめとする管理者と協力会社の社員が、専用チェックシートを使用し、出発前の車両点検などを実施しています。



ターミナル点検ポスター



点検のようす

● 幹線輸送全国一斉安全パトロール実績 (2007年度)

実施日	点検総台数	不具合台数	点検スタッフ
2007年4月6日～7日	3,508	13	789

● 幹線輸送全国一斉ターミナル点検実績 (2007年度)

実施日	点検総台数	不具合件数
2007年7月 9日	5,381	195
2008年1月15日	5,415	141

Voice

車両整備に携わる者として常に心掛けていること

私たち整備士が故障を見逃すことや作業ミスをするのは、事故につながり絶対に許されません。職務の重要性と責任の重さを十分認識し、整備不良による事故を絶対に起こさないよう、確実な点検整備の実施を心掛けています。

佐川ギャラクシーモーターズ 札幌店
検査員 古谷憲治
(一級小型自動車整備士)



担当しているすべてのお客さまに信頼していただけるセールスドライバーを目指します。

佐川急便 深江店 芥切拓磨



安全な社会の実現を目指して

すべての人々が安全で安心できる交通社会の実現に向け、地域と連携しながらさまざまな活動を行っています。

子どもたちの笑顔を守る「さがわきゅうびん交通安全教室」

2003年から、全国の佐川急便の支社・営業店で、園児から小学校低学年児童を対象に「さがわきゅうびん交通安全教室」を実施しています。

心身ともに発達段階にある子どもたちは、好奇心が旺盛な反面、注意力が低く、交通ルールの理解も未熟なことから、思いがけない行動に出ることがあります。この未来ある子どもたちを、悲惨な事故から守りたいという強い思いを胸に、2007年度は全国で769回実施し、121,660名の子どもたちが参加してくれました。

女性従業員が運営の中心となり、「交通安全お姉さん」として、子どもの視線に立って行っている丁寧な指導は、教育機関やPTA、警察関係者からも高い評価をいただいています。

また、日頃ハンドルを握っているドライバーも積極的に参加し、子どもたちとのふれあいを通して、安全に対する意識を再確認しています。2007年度は、2,066名のドライバーが参加し、子どもたちと行動をともにすることで多くのことを学んでいます。



■子どもたちからの贈り物

佐川急便尼崎店では、地元の小学3年生71名を対象に、「さがわきゅうびん交通安全教室」を開催し、交通事故の大きな要因である、車の死角や危険性について学んでいただきました。

後日、子どもたちから体験を終えての作文集をいただき、その素直でかわいいメッセージに、社員全員がさらに安全意識を強め、事故を起こさないよう日々の安全運転に徹しています。



かわいいメッセージをたくさんいただきました

Voice

交通安全教室を実施して感じること

交通安全教室は身が引き締まる経験であると同時に、多くを学ぶ勉強の場でもあります。子どもたちの笑顔を見るたびに「この愛らしい笑顔は私たちが守らなければならない」と強く思います。そして、どんなに小さな子でも真剣に私の話に耳を傾けてくれるので、喜びを感じられる反面、私たち大人が普段から模範となる行動をとらなければ反省させられます。

未来ある子どもたちに、命の大切さ、交通安全の大切さを伝えていくことが私の使命だと感じています。

佐川急便 九州支社 安全推進課 白石誠子



高齢者を対象にした交通安全教室

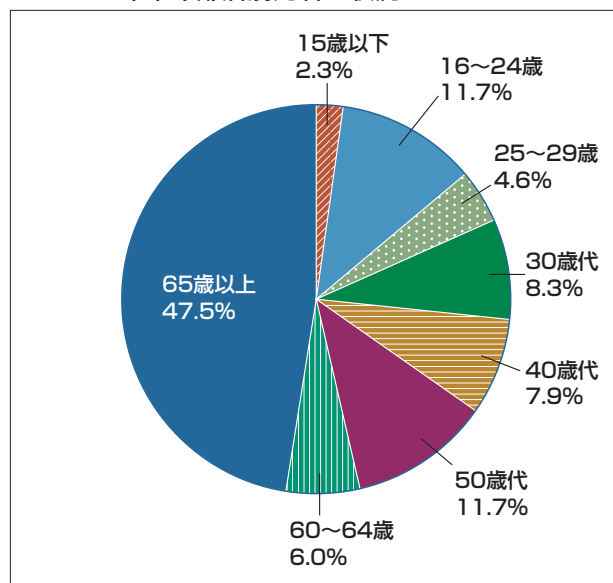
警察庁からの発表によると、2007年の交通事故による死者5,744名のうち、65歳以上の高齢者の占める割合が半数近い47.5%であるという結果が出ています。他の年齢層がここ数年では減少傾向にある中、高齢者の死亡数は1975年以降増加傾向が続いています。

佐川急便では、幼児・小学生に対する交通安全教室に加えて高齢者を対象にした交通安全教室も各地で開催しています。



高齢者対象の交通安全教室

● 2007年中年齢層別死者の状況 (構成率) (出典:警察庁)



安全のための営業店の取り組み

佐川急便では安全にかかわる表彰制度のひとつとして、営業店を対象に連続無事故表彰制度を設けています。連続無事故とは、車両の保有台数に連続無事故日数を乗じて算出するもので、営業店の全社員が一致団結して安全運転に取り組めます。そのような中、3月6日、神戸店が連続無事故15万日を達成しました。

神戸店では「燃費向上キャンペーン」を独自に展開。班ごとのエコ安全ドライブの一環として燃料消費率を競うことで、急加速、急減速の減少や、十分な車間距離が保たれるなど安全運転への意識が高まった他、ドライバー全員の

意識が向上し、積極的にエコ安全ドライブに取り組むようになりました。



佐川急便 神戸店

国土交通省の運輸安全マネジメント評価

2007年10月30日、31日に国土交通省による運輸安全マネジメント評価監査が実施されました。監査の結果、「安全重点施策の達成状況の把握、検証、見直しの仕組み」、「計画的・体系的な教育の実施および実施結果をふまえた見直し体制の構築」などの点について、高い評価をいただきました。

今後も、全社的な安全意識の向上を目指し、取り組みを推進していきます。

「安全性優良事業所」の認定取得

佐川急便と佐川引越センターは、2007年度、321の事業所において、国土交通省による「安全性優良事業所」の認定を取得しています。これは、利用者がより安全性の高い企業を選べるよう、また、運輸業界全体の安全に対する意識向上を目的としたものです。今後も、社会から選ばれる企業グループとなるよう取り組んでまいります。



お客さまへの『目配り』『気配り』『心配り』を心掛けています。

株式会社ニューウェルゴルフ倶楽部 営業部 内山久美子



環境活動報告

～美しい空へ～

「地球の美しい空を守りたい」

トラックが地球環境に与える影響は大きく、
人類共通の課題である地球温暖化防止をはじめ、
さまざまなテーマに対し、
ハード面（物的対応）とソフト面（教育・啓発）を
組み合わせて取り組んでいます。



環境理念と環境方針

環境理念

佐川急便は「良き企業市民」として自主的で継続的な環境保全の為の基本方針を定め、社会と自然との共生を図りつつ、地球規模の環境問題に取り組み、地域社会の発展に貢献します。

環境方針

- 1 排出ガスによる地球温暖化、大気汚染を防止するため、輸送の効率化、低公害車の導入、エコドライブの実践を推進し、環境保全のための継続的な改善を図ります。
- 2 省資源・省エネルギー・3Rを推進し、循環型社会構築のために、その取り組みに対する改善、企画、提案をします。
- 3 環境関連法規制、条例、協定及びその他の要求事項を順守し、環境負荷の低減、環境汚染の防止に努めます。
- 4 環境教育、啓発活動を通じて全従業員に本方針を周知し、環境活動を推進します。
さらに広く一般に本方針並びに当社の環境活動に関する情報を提供します。
- 5 環境目的、環境目標を定め、定期的に見直すことにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。

地球温暖化防止への取り組み

トラックを使用し事業を営む総合物流企業として、「大気」への影響を最重要課題とし、地球温暖化防止、大気汚染防止の活動に取り組んでいます。

クライメート・セイバーズ・プログラムへの参加

「クライメート・セイバーズ・プログラム」とは、世界最大の民間自然保護団体であるWWF（世界自然保護基金）と、先進的な環境対策を進めている世界の企業が協働して、温室効果ガスの削減を目指す取り組みです。プログラムの最大の特徴は、WWFとの対話を通じて削減目標を設定することと、第三者機関による検証が行われることです。これにより、企業は取り組みに透明性と信頼性を得ることができます。

このプログラムに参加するための条件として、現状の計画を上回る削減目標を設定することと、原則として生産量や売上高あたりの排出量である原単位で定めるのではなく、絶対量（総排出量）で目標を設定することが定められています。

リーダーシップを期待される、たいへんレベルの高いプログラムであるといえます。

2008年3月現在、全世界で15社がこの取り組みに参加しており、佐川急便は日本企業においては第一号、物流企业としては世界で唯一参加しています。



国内第一号として参加

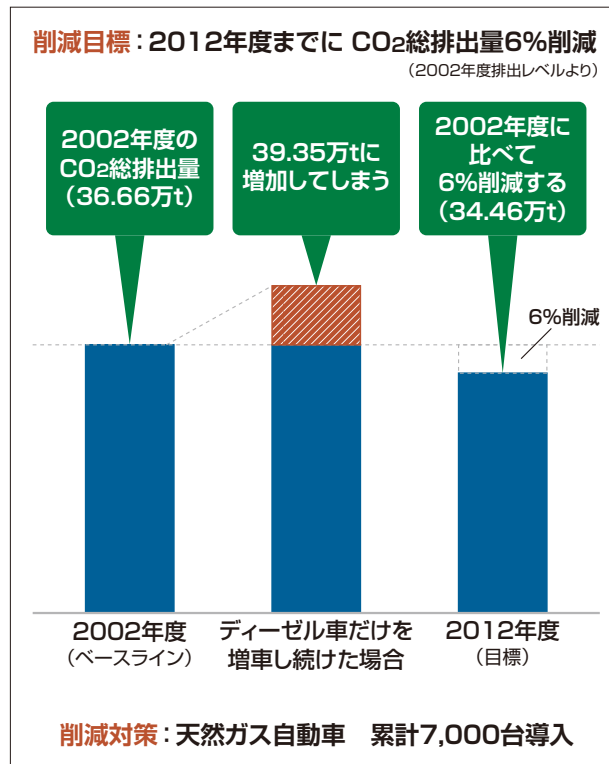
■ 佐川急便の目標

佐川急便は、2003年5月にクライメート・セイバーズ・プログラムに調印し、WWFと協働した取り組みを開始しました。佐川急便が掲げた目標は、2012年度までにCO₂総排出量を2002年度比で6%削減するというものです。

仮に、2012年度まで業績が拡大を続け、同時に環境対策を実施しなかった場合、CO₂の排出量は2002年度の約36万トンから約39万トンにまで増加してしまいます。そこで、2012年度のCO₂総排出量を6%削減の約34万トンにするために、天然ガストラックを7,000台導入する計画を立てました。目標は6%の削減ですが、業績拡大による増加量を考慮すると、実質約14%の削減が必要となる見込みです。

また、この目標値は事業活動で使用する燃料や電力の使用量を基準に、会社全体で排出しているCO₂の総排出量である絶対量で策定しています。従って、事業活動の拡大に伴うCO₂排出量の増加が認められない非常に厳しい目標です。

● 削減目標と対策



クライメート・セイバーズ・プログラムの進捗状況

佐川急便では、2002年度のCO₂総排出量を基準とし、2003年度から2007年度までの5年間に、天然ガス自動車の導入をはじめとした、さまざまな取り組みを行ってきました。前年度の進捗では、基準年と比較して約1万トンのCO₂を削減し、取り組みの効果が表れておりました。

しかし、2007年度のCO₂総排出量は、39.93万トンで、基準年から3.26万トン上回る実績となりました。

CO₂排出量推移

(単位:t-CO₂)

	軽油	ガソリン (ハイオクを含む)	天然ガス	電力	合計
2002年度	244,552	18,780	5,810	97,477	366,619
2006年度	207,515	25,893	24,300	98,407	356,116
2007年度	238,886	30,808	28,261	101,307	399,262
増減 (07-02年)	▲5,666	12,028	22,451	3,830	32,643
対比 (07-02年)	97.68%	164.05%	486.42%	103.93%	108.90%

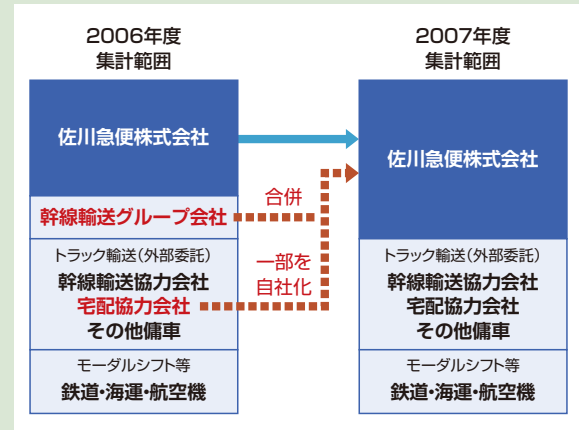
※クライメート・セイバーズ・プログラムの取り組みを開始した2002年度を基準（ベースライン）としています。

※集計の範囲:2002年度ベースライン算出の集計範囲は、佐川急便施設内に併設するグループ会社や外部テナント分の電力、燃料外販分を含みます。なお、2004年度以降は、当該プログラムに取り組んでいる佐川急便(株)の事業活動のみを対象として集計しています。ベースラインとの比較のため、佐川急便施設内に併設するグループ会社や外部テナント分の電力、燃料外販分に相当するCO₂排出量(10,435t-CO₂)を加算しています。

※集計の基準:「クライメート・セイバーズに係る覚書」および「環境会計マニュアル2007年度版」
※CO₂排出係数:環境省2002年12月19日発表「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」に基づくCO₂排出係数

CO₂排出量増加の理由

従来は外部委託をしていた幹線輸送業務および、宅配業務の一部を佐川急便(株)に取り込んだことにより、2006年度までは集計範囲外であったものが、2007年度より佐川急便の排出分となったことが影響しています。



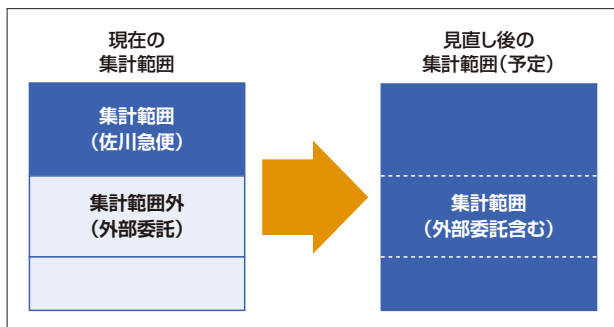
■クライメート・セイバーズ・プログラムの集計範囲

なお、2007年度は集計範囲外より取り込んだCO₂排出量43,791トン(推定値)により大幅な増加となりましたが、従来の集計範囲であれば、2002年度比で-3.04%であったと推察します。

さらなる目標へのチャレンジ

2007年度の集計範囲拡大により従来の目標設定時とは大きく異なる範囲となったこと、および、クライメート・セイバーズ・プログラム開始から2007年度終了時点で目標までの中間年を経過したことに伴い、2008年度中に集計範囲(ベースライン)と目標設定の見直しを実施します。

従来のように、自社内のみの集計ではなく、業務委託をしている部分についても集計範囲内とし、荷物をお預かりしてから配達完了までの運送責任範囲と同じ範囲で、環境対策に取り組む準備を進めています。



Topic 鴨下環境大臣が佐川急便の環境保全活動を視察

2008年5月、鴨下一郎環境大臣が、佐川急便の環境保全活動を視察されました。この視察は、京都議定書の第一約束期間を踏まえ、各業界が行っている地球温暖化対策をはじめとした環境保全活動の実態を把握することを目的としています。

今回の視察では、佐川急便が積極的に導入している天然ガス自動車と自家用天然ガス充填所、メールセンターの視察が行われ、佐川急便の取り組みを高く評価いただきました。



実際に天然ガスを充填する作業をご覧いただきました

天然ガス自動車の導入計画と実績

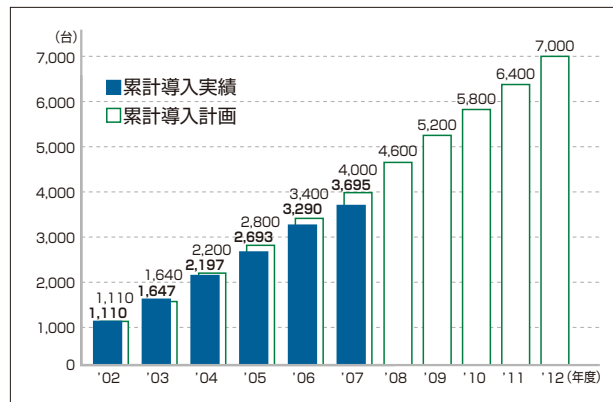
2008年3月現在で累計3,695台の天然ガス自動車を導入しました。これは日本国内の天然ガストラック普及台数の約24%にあたり、民間企業では最も多い台数となります。また、天然ガス自動車の燃料補給インフラとして、天然ガス充填所を独自に7カ所設置しています。

今後の天然ガス自動車大量導入を実現するためには、まだまだインフラ整備が不十分なため、佐川急便では2008年度に新たに約20カ所の自家用天然ガス充填所を設置する準備を進めています。



天然ガス自動車

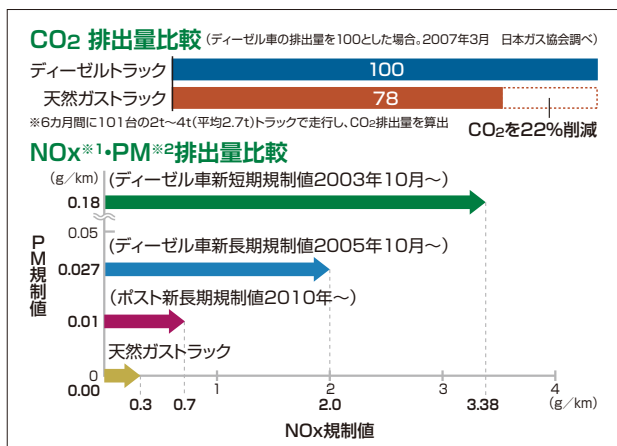
●導入計画と実績 (2008年3月現在)



環境にやさしい天然ガス自動車

天然ガス自動車は、天然ガス(都市ガス)を燃料としており、一般的なディーゼル車と比べて、CO₂やNOx※1の排出量が少なく、PM※2は全く排出しません。

●排出ガスの性状性能 (ディーゼル車と天然ガス自動車の比較)



※1 Nitrogen Oxide: 窒素酸化物(光化学スモッグや酸性雨などを引き起こす大気汚染原因物質とされる)

※2 Particulate Matter: 粒子状物質(ぜんそくや気管支炎を起こすとされる)

バイオ燃料の活用を開始

集配車両から排出されるCO₂の削減を目的に、バイオガスを利用しています。また、軽貨物自動車についてもバイオガソリンの活用を始めています。

バイオガスは下水処理の過程で発生する消化ガス※を有効利用しており、バイオガソリンは、ガソリンに植物を原料とするバイオエタノールを配合した燃料で、いずれもCO₂削減につながる次世代燃料として注目されています。

今後は、バイオ燃料の普及にあわせて、積極的に利用していきます。

※下水から汚れを取り除く過程で発生するガスで、メタンを約60%含む



実験施設



バイオガスステーション

Topic

クライメート・セイバーズ東京サミット2008で気候変動に立ち向かう「東京宣言」に署名

2008年2月15日、佐川急便をはじめ、WWFのクライメート・セイバーズ・プログラムに参加する世界各国12の企業が東京に会し、世界の気候変動に立ち向かう「東京宣言」を発表しました。

クライメート・セイバーズ東京サミット2008において署名されたこの宣言では、「気候変動による危機的状況避けるためには、温室効果ガスの排出量を2050年までに50%以上削減すること」と、「気温上昇を2度未満に抑えるため、今後10年~15年で排出量のピークを迎え、その後速やかに削減すること」を強く訴えています。



進捗の発表



佐川急便も「東京宣言」に署名しました

常にお客さまの視点に立ってサービスを提供し、信頼を得られるセールスドライバーになります。

佐川グローバルロジスティクス株式会社 札幌支店 鈴木龍二



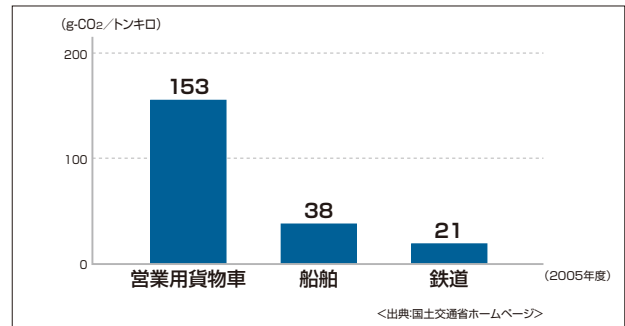
輸送の効率化による環境対策

「環境負荷の小さい輸送」を目指し、トラック輸送からの転換と、輸送を効率化することによる輸送回数の軽減など、環境負荷低減に取り組んでいます。

「モーダルシフト」のCO₂削減効果

環境負荷の小さい鉄道・海運利用へと、貨物の輸送手段を転換することをモーダルシフトといいます。例えば、1トンの貨物を1km運ぶときに排出するCO₂の量を比べると、鉄道はトラックの1/8、海運は1/4といわれています。これは、一度に大量の荷物を輸送することで輸送効率を高め、エネルギー消費を低減しているためです。

● 輸送機関別 CO₂ 排出原単位



「スーパーレールカーゴ」によるモーダルシフト

佐川急便では、輸送をトラックのみに頼るのではなく、環境負荷の小さい鉄道や船舶などへ輸送手段を切り替え、複合的に組み合わせて輸送するモーダルシフトを推進しています。特に日本の大動脈であり、交通量が最も多く、環境負荷の大きい東京-大阪間の輸送にあたっては、スーパーレールカーゴを利用することで、輸送量の約10%をまかなっています。

このスーパーレールカーゴは、国土交通省の実証実験から誕生したもので、日本貨物鉄道株式会社と共同開発し、佐川急便が全編成を借り切って宅配便輸送に使用しています。毎日深夜に16両編成（31フィートコンテナを28個搭載）の列車を東京-大阪間で上り下り各1本運行しており、東京-大阪間を約6時間で結び、積載量は往復で10トントラック56台分に相当します。

このスーパーレールカーゴの活用により、大型トラックによるCO₂排出量を大幅に削減し、環境負荷低減に直接的な効果を発揮しています。



早朝、荷物を積んだスーパーレールカーゴが駅に到着します



スーパーレールカーゴからトラックに、コンテナへの積み替えがどんどん行われています



わずか30分ほどで全部のコンテナがトラックに積み替えられました

■さらに広がるモーダルシフト

スーパーレールカーゴ以外にも、鉄道輸送や海上輸送を積極的に活用し、トラック輸送の削減を推進しています。これにより環境負荷を低減するとともに、交通事故防止や長距離運転による労務問題の解消にもつながっています。2007年度もモーダルシフトの取り組みにより、大きな効果を得ています。

●モーダルシフトによる効果 (2007年度)

	年間減便数 (10トン換算)(台)	CO ₂ 削減量 (t-CO ₂)
スーパーレールカーゴ	16,183	12,698
鉄道輸送(スーパーレールカーゴ以外)	27,020	47,534
海上輸送(フェリー)	36,475	18,377
合計	79,678	78,609

※国土交通省出典：貨物輸送機関の二酸化炭素排出原単位(2001年度)より算出
 ※2007年度における実質的な削減量ではなく、モーダルシフトを行わなかった場合の環境負荷を効果として算出

●一元管理で環境負荷を低減する「佐川流通センター」

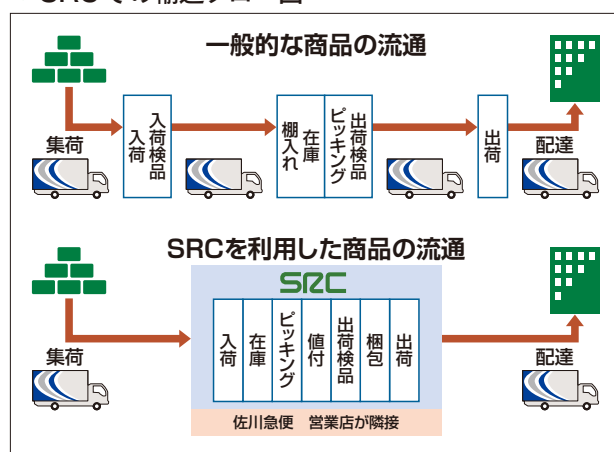
佐川グローバルロジスティクスが運営・管理する「佐川流通センター(SRC)」では、お客さまの商品を入荷～一時保管～検品～値付する物流加工から出荷までをトータルにサポートしています。

一元管理による徹底した合理化を進めると同時に、お客さまはSRCをご利用いただくことで、物流にかかわる手間の簡略化とコスト削減が可能となります。

環境面においても作業工程ごとの無駄な輸送を削減できることから、環境負荷の低減につながっています。

2008年3月現在、29カ所のSRCと27カ所の営業所を活用して、お客さまのCO₂排出量削減に貢献しています。

●SRCでの輸送フロー図



SRC外観



商品管理



在庫管理

Voice

“CO₂削減につながる” SRCの活用

私たちが運営・管理をしておりますSRCでは、商品の保管および物流加工業務全般を行う物流センター機能と、全国ネットワークの輸配送機能を有する佐川急便の配送ターミナルを一体化させています。そのため、『足を持つ物流施設』として、従来型の物流施設に比べ、商品の入出荷に伴う持ち帰り輸送が無くなり、その輸配送に伴うCO₂の排出が抑制できます。

また、SRC内では業務上発生する廃棄物の分別回収を徹底し、リサイクルの推進はもちろんのこと、エコ材を使用した梱包資材の提案など、お客さまとともに地球環境の保全に積極的に取り組んでおります。

佐川グローバルロジスティクス
 ロジスティクス事業本部 営業開発部
 部長 山岡誠吾



「ずっと石原君に担当してほしい」と思っていただけのセールスドライバーを目指します。

佐川急便 知多店 石原健嗣



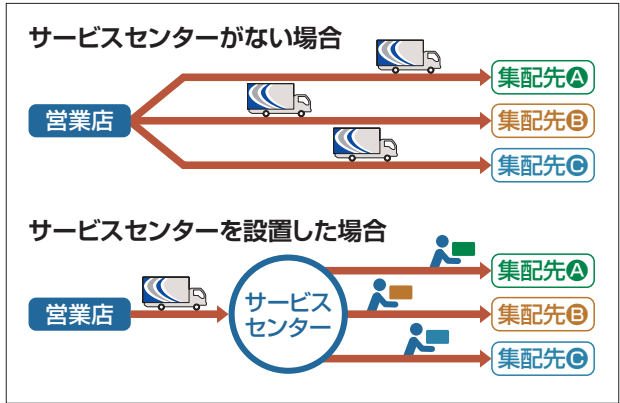
「サービスセンター」による環境負荷低減

トラックが環境に与える影響は小さくはなく、特に人口が集中する都市部では環境負荷も集中しがちです。佐川急便では、交通量が多く駐車スペースが少ない都市部を中心に、配送車両を使用しない「サービスセンター」を設置。台車や自転車を用いた人力での集荷・配達を行い、環境に負荷を与えない配送を実現しています。

また、都市部では多くの運送事業者が集中するため、配送車両の駐車が交通渋滞の一因となっています。サービスセンターを使用することで、交通渋滞の緩和にも貢献しています。その他、車両を使用しないことから車の運転に自信がない人でも十分に活躍できる職場として、現在では女性社員も大活躍しています。

2008年3月現在、全国都市部を中心に190カ所を設置しており、約1,000台相当の増車を抑制しました。サービスセンターは、人にも環境にも社会にもやさしい配送の拠点として、これからも積極的に展開していきます。

● サービスセンターフロー図



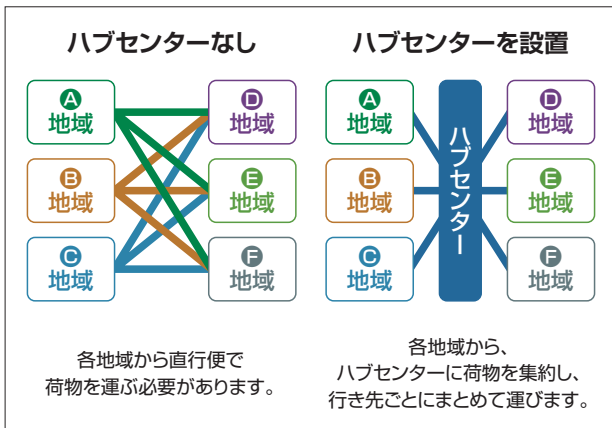
サービスセンターと配達の様子

輸送の効率化を図る「ハブセンター」

輸送を支えるネットワークづくりの一環として、大規模な荷物の集約施設である「ハブセンター」を国内に5カ所設置し、輸送の効率化を推進しています。

ハブセンターに集められた荷物は、行き先ごとに仕分けされることで積載率が向上し、トラック使用便数の抑制を実現。これにより、トラックの排出ガスを大幅に削減でき、大気汚染物質やCO₂の排出抑制につながっています。

● ハブセンター利用による輸送フロー図



10月に誕生した「佐川急便北九州センター」



自動仕分機

Topic

九州発着貨物の輸送効率UP！ 佐川急便 北九州センター開設

九州発着貨物の中継機能、集配機能、物流加工機能を併せ持つ大型物流施設「佐川急便 北九州センター」が2007年10月に誕生しました。陸、海、空の交通基盤が整備された環境を活かし、輸送効率のさらなる向上を図ります。

資源の有効活用

廃材を利用して製品をつくる、自然エネルギーを事業エネルギーに転換して利用するなど、資源を有効活用して環境負荷の低減に努めています。

ECO車体の採用と展開

佐川ギャラクシーモーターズでは、地球環境への配慮、ドライバーの荷台作業の環境改善を考慮した「ECO車体」を展開しています。

2007年度の架装台数は1,415台となり、累計出荷台

数は6,000台を超えました。

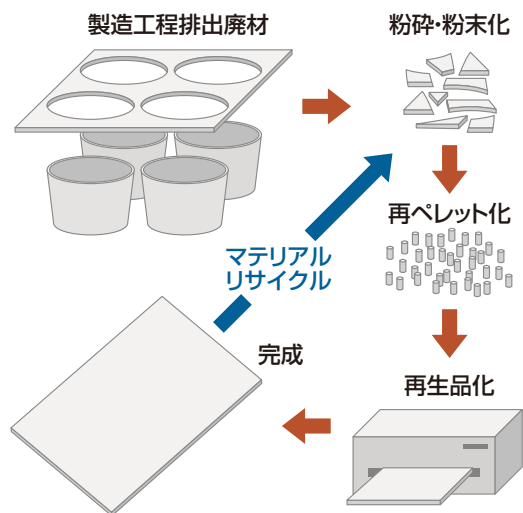
2008年度は、さらなる普及を目指し、1,800台の架装を目標に取り組んでいきます。

リサイクル樹脂材料を使用した内装材

車両ボディの内装材に用いられるボードには、リサイクル樹脂を利用しています。原料は、カップ麺容器の製造工程から出る廃材を100%利用。このボードの採用により、2007年度は約90トンの木材の使用を削減しました。



1,415台=年間削減量 約90トン(木材の使用を削減しました)



太陽光発電システムの導入

太陽エネルギーを活用した太陽光発電システムは、発電する際にCO₂や有害物質を全く出さない、環境にもたいへんやさしい発電システムです。

佐川急便では、2003年度よりこの太陽光発電システムを導入しており、現在、全国21カ所で稼働しています。2007年度は、合計140kWの太陽光発電システムを導入し、累計440kWのシステムを保有しています。年間発電量に換算すると、約44万kWhにおよび、これは国内の一般家庭の約120世帯分の年間消費電力量に相当します。

今後も太陽光発電システムを導入し、自然エネルギーの利用による地球環境保全を推進していきます。



太陽光発電システム



太陽光発電電量表示パネル

「仕事は楽しく!」をモットーに! でも時には凹みながら成長していきたいです。

佐川フィナンシャル株式会社 e-コレクト事業部 坂下弘幸



循環型社会を目指して

循環型社会の実現には、資源の循環が必要不可欠です。私たちは、製品のライフサイクルの循環、すなわち資源の循環をサポートしています。

エコユニフォームの採用

SGホールディングスグループでは、グリーン購入を推進しています。中でも、当グループのユニフォームには、ペットボトルを再利用した再生ポリエステルを使用しているエコマーク認定品を採用しています。

2007年度に製造したユニフォームは約48万9,000着で、約145万本のペットボトルを再利用したことになります。

また、使用済みのユニフォームについては、制服管理センターで回収し、リユースが難しいと判断されたものに関しては、中間処分場にて破碎処理・ペレット化を行い、製鉄所の高炉還元剤としてリサイクルしています。

また、セールスドライバーが使用している軍手も、エコマーク認定品を採用しており、2007年度は、約97万8,000双を利用しました。

● エコユニフォームができるまで



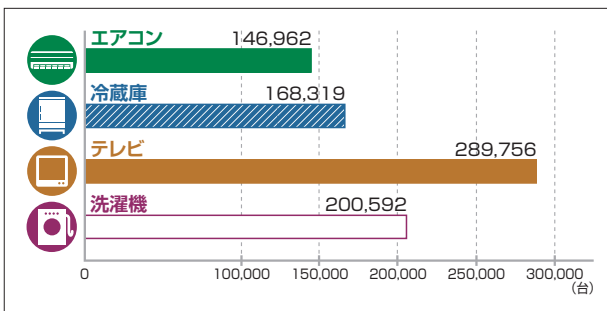
● 使用済みユニフォームのリサイクル



家電リサイクル回収品の運搬支援

佐川急便では、家電リサイクル法で回収が義務付けられている指定家電製品（エアコン、冷蔵庫、テレビ、洗濯機など）のリサイクルを行うため、家電メーカーからの依頼により、再商品化施設などへの搬送業務を行っています。近畿・中部・四国の佐川急便の営業店24カ所が指定引取業者となり、円滑な資源の循環を支えています。

● 家電リサイクル取り扱い実績 (2007年度実績)



3Rに対応したパソコン輸送サービス「飛脚パソコン便」

佐川急便では、3R※に対応した輸送サービス「飛脚パソコン便」を展開しています。パソコンの修理時に、メーカーとユーザー間で輸送を行う際、繰り返し使用することができるオリジナルの梱包材「SAGAWA soft air package」を使用しています。

この梱包材は、振動や衝撃から製品を守る輸送品質の高さと、従来の梱包のようにゴミを出さないなど、環境に配慮した製品として高く評価されており、2007年度は、約23

万7,000件のご利用をいただいています。

※ Reduce (ゴミの発生抑制)、Reuse (再利用)、Recycle (再資源化)の頭文字をとって3Rと呼ばれています



飛脚パソコン便オリジナル梱包材

飛脚グリーンメール

「飛脚グリーンメール」は、冊子やカタログなどの開封口部分を汚さず簡単にはがすことができる特殊なテープと、宛名ラベルを貼るだけで送れるメーリングサービスです。紙やビニールなどの封筒が不要になり、包装資材を大幅に削減できる環境にやさしい輸送サービスです。

一般的なA4サイズの封筒で送る場合と比べ、1冊あたり約14gの包装資材の削減になり、毎月1万冊をご利用いただいた場合、1年間で約1,680kgの包装資材の削減につながります。

2007年度は、約149,000冊をご利用いただきました。



特殊なテープは簡単にはがせます

廃棄物の削減対策

循環型社会の構築に向けて、事業活動で生じる廃棄物を可能な限り減らす取り組みを行っています。佐川急便では、年間を通じた分別徹底運動をステップアップ方式で実施した結果、2007年度の廃棄物総量は約1,143トンになりました。

これからも、環境方針にもあるように、3Rを推進し、徹底した分別による廃棄物の抑制と再資源化を実践します。

車両リサイクルの取り組み

佐川急便で使用済みになった車体は、佐川ギャラクシーモーターズにて適切に処理しています。

■車両フロンの回収

整備作業時および車両廃棄時にフロンガスを大気中に放出しないよう適切に回収し、破壊処理を行っています。2007年度は9.1kgのフロンガスを回収しました。

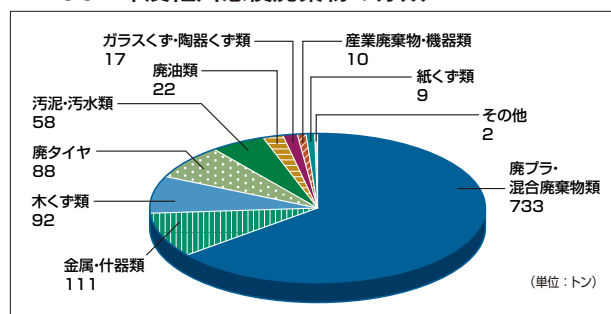
■車両エンジンオイルの回収

エンジンオイルの交換で不要になった廃オイルは、これまで産業廃棄物として処理していましたが、現在では有価物としてリサイクルを推進しています。2007年度は、415,581ℓのエンジンオイルをリサイクルしました。

■廃タイヤの回収

使用できなくなったタイヤは、最終処分業者にて加工利用・熱利用・原型利用などのリサイクルを行っています。2007年度は63,018本の廃タイヤを回収しました。

● 2007年度佐川急便廃棄物の分類



自分が走っている姿でお客さまに元気を与えることができるセールスドライバーになります。

佐川急便 岩手店 菅野耕一



SGホールディングスグループ環境行動

グループ全従業員の環境保全に対する意識の高揚を目的として、環境行動指針を制定し、年間を通じた活動を行っています。

2007年度環境行動の取り組み

環境保全への取り組みを従業員自らが積極的に推進していくことを目的に、2003年より「環境行動」を制定し、活動を行っています。この取り組みは、毎年、形を変えながら、年間を通して活動する参加型のプログラムです。

●環境行動実施項目（2007年度）

	環境行動実施項目
1	アイドリングストップ検証
2	分別徹底運動
3	環境推進事業所表彰
4	環境標語コンクール
5	環境ポスターコンクール
6	自然体験学習
7	グリーン運動～全国緑化運動
8	クリーンアップ運動
9	省エネルギー運動
10	環境教育啓発運動



2007年度環境行動ポスター

■環境推進事業所表彰

環境保全の推進や環境意識の高揚を図ることを目的として、SGホールディングスグループ全事業所を対象に、環境保全に関する活動が他の模範となる事業所を表彰し、広く公表しています。2007年度は「ノーマイカーデー」に取り組む佐川急便 長岡店をはじめ、佐川グローバルロジスティクス 川崎SRC、佐川ギャラクシーモーターズ 本社の取り組みが最優秀賞に選ばれました。



普通の駐車場



ノーマイカーデーには徒歩や自転車
車で出勤します

■環境ポスターコンクール・環境標語コンクール

社員が家族とともに地球環境について考える機会を持ち、グループ全社員の環境保全に関する意識の高揚を図ることを目的として、グループ社員の子女を対象に「環境ポスターコンクール」を実施しています。2007年度は「エコでニコニコ♪エコライフ」をテーマに、1,587点の応募がありました。

また、グループ全社員を対象とした環境標語コンクールには、「省エネルギー」というテーマに12,822点の応募がありました。



最優秀賞作品
(磯 彩乃さん)

環境標語コンクール金賞

温暖化、止める気持ちでエコ運転

(佐川急便 大阪店 久保田 康夫)

■省エネルギー運動

省エネルギー運動の一環として、2007年6月22日～24日、12月26日～28日の合計6日間、20時から翌朝5時までの間、グループ全事業所・営業所の看板灯を対象に「全社一斉ライトダウン」を実施しました。看板灯の電力を削減することで、大きな効果につながることから、今後も継続した取り組みとして実施していきます。



ライトダウン前



ライトダウン後

自然との共生

私たちは、環境負荷低減への取り組みだけでなく、「自然との共生」が重要であると考え、自然との共生に向けた取り組みを行っています。

「さがわきゅうびん自然体験学習」を通じた環境教育

「さがわきゅうびん自然体験学習」は、子どもたちに自然を身近に感じてもらい、同時に田植えや草刈り、稲刈りといった昔ながらの米づくり体験を通して、自然の恵みや食物の大切さを知ってもらおうと、2007年度より始めた活動です。

滋賀県守山市で実施した田植え体験には、グループ社員の家族や地域住民の方など約130名が参加し、約900坪の広大な水田で行いました。晴天の下、泥んこになって遊ぶ子どもたちや、慣れない作業に戸惑う大人たちなど、皆さん終始笑顔で参加してくれました。

無農薬の田んぼを利用した、ニゴロブナ（琵琶湖で絶滅が危惧されている）の稚魚の育成や、伸び放題の雑草刈りを経て、9月には約1トンのお米を収穫することができました。収穫したお米は「飛脚米」と名づけ、参加してくれた皆さんに配布しました。

自然体験学習を通して、子どもたちに自然との共生の意識が芽生えてくれればと願い、今後も継続して取り組んでいきます。



田植えのようす



ニゴロブナの放流



無農薬田んぼ



秋の稲刈り

森林のさまざまな活用を検討

SGホールディングスグループでは、四国の高知県と徳島県、東京都八王子市高尾に合計約750ヘクタールの森林を保有しています。高知県の「さがわの森」では、佐川林業による森林管理を適切に実施するとともに、森林保全に関する講義や間伐などの体験型環境研修を実施しています。

また、東京都八王子市高尾の森林では、「高尾100年の森プロジェクト」というNPOやボランティア、地域の方々と協力した里山再生への取り組みを実施しています。2007年度には、森林のCO₂吸収量の調査をはじめ、自然と触れ合うイベントなどを実施しました。



高尾の森



森林のCO₂吸収量の調査

今後も、森林の新しい活用モデルを検討し、自然との共生に向けた新たな形を提案していきたいと考えています。

Voice

環境リーディングカンパニーの森林保全活動として —「高尾100年の森プロジェクト」—

「高尾100年の森プロジェクト」には、二酸化炭素の吸収源、バイオマス研究、さらに芸術などへの活用など、これまでに無い斬新な方法で森を再生する試みとして大いに注目しています。また企業が、自社林をNPO、大学などの多様なセクターと協働で整備・管理しようという手法は、これからの日本の国土保全の試金石になるものと期待しています。

財団法人 水と緑の惑星保全機構
岩本彩哉様



環境啓発への取り組み

地球環境保全には、企業だけでなく社会全体との連携が求められます。地球規模での取り組みを実現するため、広く一般に環境啓発活動を行っています。

社会に向けた環境啓発活動

小学生への環境授業

神戸市環境局が主催した、こうべ環境未来館での「環境学習講座 小学生の夏休み宿題お助け隊」に、共催企業として参加しました。「環境にやさしい物流教室」では子どもたちの環境意識の向上につながるよう、佐川急便の環境への取り組みをわかりやすく紹介しました。



真剣に耳を傾ける子どもたち

家庭向け環境啓発冊子の配布

環境保全活動を家庭でも実践してもらえるよう、社員とその家族を対象に、環境啓発冊子を作成しています。

これまでは、「啓発」を目的とした内容でしたが、2007年度は、家庭で実際に取り組むことを目的として具体的な実施項目を記載し、自分自身が取り組む項目を選択して、結果をチェックシートに記入できる冊子を配布しました。



マンガ形式でわかりやすく説明

JOC (財団法人 日本オリンピック委員会) とのパートナーシップ

気候変動などの環境問題は、スポーツ界にも大きな影を落としており、特にウインタースポーツへの影響は深刻です。

佐川急便は、2003年3月にJOCの環境オフィシャルパートナーに認定されて以来、JOCが開催するさまざまなイベントにおいて、オリンピック会場での環境活動の取り組みや、佐川急便の環境活動を紹介するなど、スポーツを通じた環境啓発活動を行ってきました。



環境イベントへの取り組み

広く一般に環境保全活動を推進していくため、地方自治体や省庁、団体が主催する環境イベントにも積極的に出展し、一般に向けた環境啓発活動を実施しています。

● 主な出展イベント (2007年度)

イベント名	開催日	開催場所	主催
エコライフ・フェア2007	6月2日～3日	東京都 都立代々木公園	環境省 他
京都環境フェスティバル2007	12月8日～9日	京都府 京都府総合見本市会館	京都府 他
エコプロダクツ2007	12月13日～15日	東京都 東京ビッグサイト	日本経済新聞社 他
ENEX2008	2008年 1月30日～2月1日	東京都 東京ビッグサイト	(財)省エネルギーセンター



環境パネルクイズ



自転車発電体験コーナー

オリンピックデーランは、オリンピック選手と一緒にジョギングをして、スポーツの楽しさを知ってもらうための活動です。

中でも、体育の日に開催されるオリンピックフェスティバルは、最も規模の大きな大会です。2007年度は、北京オリンピック日本代表選手団応援フラッグへの寄せ書きや、スポーツと環境をテーマにしたイベントを開催しました。



応援フラッグへの寄せ書き

環境活動の推進体制づくり

より高いレベルの環境活動推進のため、環境マネジメントシステムや環境会計を導入しています。PDCAを推進し、さらなる活動へ広げていきます。

環境会計

より効果的な環境経営を実現するため、佐川急便では環境会計を導入しています。環境対策に関連する投資や経費を把握することで、将来の投資に向けた指標設定やプロジェクトごとの分析などに役立っています。

2007年度の実績では、環境投資額が約8千万円、環境費用額が約67億円となり、自家用天然ガス充填所など

の大規模投資が発生しなかったことから、前年度に比べ投資が減少となりました。

また、従来外部委託をしていた幹線輸送業務および、宅配業務の一部を佐川急便(株)に取り込んだことにより、エネルギー使用量は前年と比べ、大幅な増加となっています。(P28)

●環境保全コスト

(単位:百万円)

分類	主な取り組み内容	2006年度		2007年度		増減の主な要因
		環境投資	環境費用	環境投資	環境費用	
(1)事業エリア内コスト		147	963	79	1,028	
内訳	①公害防止コスト	21	119	5	121	投資が減少しているのは、防音壁等の設備投資が一巡したことによる。
	②地球環境保全コスト	122	144	73	146	2007年度は自家用天然ガス充填所について、次年度設置計画に向けての調査・計画が主となったため、設置に関わる投資・費用が減少した。
	③資源循環コスト	4	699	1	761	費用増加は、エンジンオイル、バッテリーリサイクルの推進によるもの。自動車リサイクル法施行3年目となり、自動車リサイクル関連費用は減少している。
(2)上・下流コスト		—	—	—	—	
(3)管理活動コスト	環境マネジメントシステム導入、グリーン経営推進、環境広告、環境教育、環境情報の開示	3	167	0	230	環境広告に力を入れたため、大幅な費用増加となった。
(4)研究開発コスト	ECO車体等環境に配慮したサービスの開発	—	0	—	0	主な研究開発案件が低コストのものであったため。
(5)社会活動コスト	国内外環境保全団体への寄付、啓発活動	—	194	—	220	
(6)環境損傷対応コスト	アスベスト粉塵対策	—	78	—	0	
(7)安全対策コスト	安全対策としての車両点検、従業員教育、啓発活動	—	5,308	—	5,230	研修施設への投資等による、研修に係る諸経費削減のため、費用減少となった。
合計		150	6,709	79	6,708	

●環境保全効果

環境パフォーマンス指標	2006年度	2007年度	環境保全効果 (2007年度実績-2006年度実績)
軽油(kℓ)	78,945	90,923	11,978
灯油(kℓ)	344	438	93
重油(kℓ)	96	116	20
天然ガス(km³)	12,404	14,426	2,022 (注1)
都市ガス(km³)	958	1,224	266 (注1)
プロパン(kg)	409,905	444,447	34,543 (注2)
ガンリン(kℓ)※ハイオク含む	11,151	13,268	2,116
電気(kWh)	23,474万	24,241万	767万
水(上水)(km³)	925	951	26
水(下水)(km³)	922	955	33
工業用水(上水)(km³)	9	8	-1 (注3)
工業用水(下水)(km³)	9	8	-1 (注3)
NOx(t)	234	283	49 (注4)
PM(t)	33	24	-9 (注4)
ペットボトルリサイクル量(本)	—	—	1,449,587 (注5)

・環境保全効果は、2006年度比の単純増減で算出しています。
 (注1) 天然ガス、都市ガスについては、供給会社からの請求書に記載された数値を集計しており、温度補正、圧力補正をしていない数値です。
 (注2) 供給会社からの請求書に記載された数値(m³)を2.07kg/m³を使用し重量換算しています。
 (注3) 工業用水については2006年度から集計しています。
 (注4) NOx、PM排出量は、トラックに関連するもののみ。また、2006年度より算定方法を見直しています。(国土交通省の定める車両型式ごとの排出係数を基に、車両ごとの走行距離から理論上の推定値を算出)
 (注5) ペットボトルリサイクル量は、2007年度においてペットボトルを原料とするユニフォームの使用により、ペットボトルのリサイクルに貢献したと考えられる効果をペットボトル本数に換算して記載しています。(換算値:半袖2.42本/枚、長袖3.76本/枚)

●環境保全効果に伴う経済効果

(単位:百万円)

経済効果	金額
工業用水(上水)使用量削減に伴う費用削減	0.2
工業用水(下水)使用量削減に伴う費用削減	0.2

・環境保全対策に伴う経済効果は、2006年度比の数値を利用。
 ・単価:佐川急便購入価格を利用。

●集計方法

・集計期間:2007年度(2007年3月21日~2008年3月20日)
・対象範囲:佐川急便株式会社単体(一部佐川ギャラクシーモーターズ株式会社含む)
・参考としたガイドライン:環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
・20万円以上の資産の取得を投資として計上しています。
・環境設備の減価償却は、4年間の定額償却で算出しています。
・人件費は環境活動時間×佐川急便平均人件費単価で算出しています。

自分にもっと磨きをかけて、常に見本となる
 トップセールスドライバーを目指します。

佐川急便 浜松店 鈴木大介



環境マネジメントシステム

2001年より佐川急便本社にてISO14001:2004の認証を受けています。より高いレベルの環境保全活動に向けて、体制の整備や実施目的・目標を設定し、達成度を検証しています。

また、2004年に佐川急便の9つの営業店が、グリーン経営認証を取得し、現場レベルでの環境保全に対する体制整備、エネルギー使用量の低減に向けた取り組みを行っています。



ISO14001 適合証明証
(佐川急便 本社)
登録証明証 No.
NQE-07060074A



グリーン経営認証登録証
(佐川急便 広島店)

● 2007年度の主な環境目標と実績

排出ガスによる地球温暖化・大気汚染の防止		
【目標】 低公害車の導入を推進する(年間448台導入を計画)		未達成 P29
【実績】 低公害車436台を導入しました。関西地区でエコステーションの設置が当初予測していたよりも進まず、計画台数には届きませんでした。		
【目標】 サービスセンターの設置により、増車台数を抑制する(新規58店設置、増車116台抑制)		未達成 P32
【実績】 サービスセンターを35店設置し、増車を83台抑制しました。設置に適した土地が見つからず、計画どおりの設置数に届きませんでした。		
【目標】 次世代燃料の研究・検証を行う(バイオガソリン、BDF、バイオガスの使用を検証)		達成 P29
【実績】 神戸市において約2カ月の試験運用を経て、バイオガスの活用を開始しました。		
省資源・3Rの推進による循環型社会の構築を目指した活動		
【目標】 各種古紙の専用回収箱を設置し、適正処理と再資源化を実施する		達成 P35
【実績】 一般古紙、古新聞、雑誌の専用回収箱を設置し、分別による再資源化を推進すると同時に、機密文書専用回収箱を設置し、溶解処理を経て再資源化されるフローを構築しました。		
【目標】 帳票類のペーパーレス化を推進する		達成
【実績】 2007年5月より、全異動上申請書をペーパーレス化しました。		
営業店・事業所の施設に対する環境配慮		
【目標】 自然光を利用した照明効果による省エネルギー設計を推進する		達成
【実績】 新設店4店において、自然光を利用した照明効果による省エネルギー設計を実施しました。		
【目標】 太陽光発電システムの導入を促進する		達成 P33
【実績】 新設店5店に合計140kWの太陽光発電システムを導入しました。		
社内外での環境啓発活動の推進・環境情報開示		
【目標】 「SGホールディングスグループ環境行動」を通じ、グループ全従業員が環境行動を実践する		達成 P36
【実績】 毎月環境行動で計画したさまざまな活動をグループ全従業員で実施しました。		
【目標】 冊子・Web・映像を使い分け、従業員の環境意識の啓発を促す		達成
【実績】 社内報1回/月、社内回覧9回/年、映像社内報10回/年により、社内環境啓発を実施しました。		
【目標】 ニュースリリースや取材対応、記者との意見交換を行い、広くステークホルダーに情報を発信する		達成
【実績】 ニュースリリース16件/年、取材対応54件/年を実施しました。		

環境法令への対応

■改正地球温暖化対策の推進に関する法律

地球温暖化対策の推進に関する法律の一部改正に基づき、2006年4月から温室効果ガスを多く排出する事業者に対して、温室効果ガス排出量の算定と国への報告が義務付けられています。

佐川急便は、多くのエネルギーを使用して事業を営む企業として、エネルギー使用量の把握と、排出した温室効果ガス(主に二酸化炭素)を適切に算出し、定められた定期報告義務を果たすと同時に、地球温暖化防止への取り組みを積極的に実施しています。

■改正省エネ法

各部門におけるエネルギー使用の一層の合理化を図るため、2006年4月に改正省エネ法が施行されました。この改正により、輸送にかかわる事項が新設され、輸送事業者および荷物の輸送を委託する荷主にも取り組みが義務付けられました。

また、一定規模以上の輸送能力を有する輸送事業者および荷主企業は、省エネ計画の策定と、エネルギー使用量の定期報告が必要となることから、佐川急便では、ご利用いただいたお客さまを支援するため、保有する貨物輸送情報やその他付帯情報を駆使してエネルギー使用量算出のお手伝いをさせていただきます。

■水質汚染・土壌汚染の防止対策

車両を主な事業活動で使用する当グループでは、「大気」への影響を最重要課題と捉え、環境保全活動を展開していると同時に、水質汚染や土壌汚染の防止にも努めています。自社で所有する燃料用地下貯蔵タンクや地下に敷設している配管、また給油所や厨房内の油水分離槽についても専門業者による点検や清掃作業、廃棄物処理などを適切に実施しています。

この他にも、環境にかかわる法律や条例、規制にも適切に対応し、皆さまの生活に密着したSGホールディングスグループとして、法令遵守の精神に則り、地球温暖化の防止と大気汚染防止への取り組みを推進していきます。

■自動車NOx・PM法

大気汚染が著しく深刻な大都市周辺地域における大気汚染の改善を図るため、自動車から排出されるNOx(窒素酸化物)、PM(粒子状物質)を規制する法律が、2001年6月に制定されました。

佐川急便では、自動車NOx・PM法の対象地域における万全な対策を実施しており、対象地域以外においても、天然ガス自動車の積極的な導入や規制適合車への代替を順次行っています。

●NOx・PM排出量(2007年度)

	排出量
NOx(軽自動車含む)	282.94トン
PM(軽自動車含む)	23.57トン

●NOx/PM排出量算定方法:国土交通省の定める車両型式ごとの排出係数を基に、車両ごとの走行距離から理論上の推定値を算出しています。

計算式:佐川急便(株)が保有する全車両の車両型式ごとの排出係数(g/km)×年間走行距離(km)の総計



社会とのかかわり

～人と人とのつながり～

「物流」という社会インフラを支える
企業グループとして、
社会からより高い信頼を得られるよう、
本業にそって
「お客さま」、「従業員」、「地域社会」
とのつながりを大切にしています。



SGホールディングスグループとステークホルダー

SGホールディングスグループの事業活動には、荷物の配送のご依頼をいただくお客さま、従業員、お取引先などの協力企業をはじめ、多くのステークホルダーとの信頼関係が不可欠です。

また、株主からの信頼、許認可事業という特性上、行政からの信頼も重要です。さらに、地域住民の方、NPO・NGOやマスコミからも信頼され、社会から必要とされる企業グループを目指しています。



ステークホルダー・ダイアログの開催

ステークホルダーとの対話を通じて当グループに対するご意見・ご要望をお聞きし、いただいた声を事業活動に活かしていきたいと考えています。佐川急便では、2004年度の「環境・社会報告書を読む会」から始まり、さまざまなステークホルダーの方をお招きして佐川急便への期待を伺い、課題について一緒に議論させていただく場を設けてきました。

2007年度は前回に引き続き、「持続可能な国づくりを目指して物流分野が果たす役割」をテーマに開催しました。行政関係者、学識経験者、NPO・NGO代表者、企業担当者、ジャーナリストなど合計32名の方々と、環境負荷低減に向けた取り組みを「パートナーシップ」と「環境経営」という2つの視点から議論しました。



第4回 SAGAWA ステークホルダー・ダイアログの概要

【テーマ】 持続可能な国づくりを目指して物流分野が果たす役割

【実施日】 2008年2月29日(金)

【場所】 東京

【参加者】 32名

行政関係者、学識経験者、NPO・NGO代表者、企業担当者、ジャーナリスト、佐川急便担当者

【実施内容】

- 基調講演
- グループディスカッション
 - A: パートナーシップによるグリーン物流のさらなる実現に向けて
 - B: いま、環境経営に求められていること
- グループ発表および全体ディスカッション

■ ダイアログから生まれたエコポイント

前回のダイアログで参加者から「物流のインフラを利用した、環境に配慮したサービスの検討を」という提案がされました。これまでもさまざまな場面で「消費者に環境負荷について認識させるような取り組みを行ってほしい」というご意見をいただいていた。そこで2007年11月、佐川急便ではそれらのご提案を基に、宅配便とエコポイントを結びつけ、環境負荷低減を実現するサービスを開発しました。

今回のダイアログでは、このサービスについての成果を参加者へ報告し、今後の物流と環境における新たな課題や、環境負荷低減に向けた取り組みについて2つのグループに分かれて議論していただきました。

■ キーワードを基に全体ディスカッション

参加者それぞれが提示したキーワードを基に、グループで意見をまとめました。その内容を基に、全体ディスカッションが行われ、今後の活動につながる貴重な意見をいただきました。主な内容は次のとおりです。

(全体ディスカッション抜粋)

【コスト意識と「見える化」】

理想のグリーン物流を実現させるためには、条件は2つある。1つは消費者に、物流にかかるコスト意識を持ってもらうことである。もう1つは環境負荷の「見える化」である。この2つのバランスを取りながら実行していくことが大切である。

【セールスドライバーの情報発信】

グリーン物流の実現には、消費者の積極的な理解が求められる。そのためには、「グリーンな情報」が重要になる。消費者、着荷主、発荷主と直接コミュニケーションがとれるセールスドライバーが、環境に対する深い知識や意識をもち、わかりやすい言葉で情報を発信することが望まれる。

【理想のグリーン物流実現のための「全体最適」】

「製品の作り方を変えればこんな物流ができて、これだけ環境負荷が減り、コスト削減にもなる」という提案を荷主に対して行うべきである。理想のグリーン物流の実現の鍵は、製品の使い方から回収、静脈物流までを含めた「全体最適」にある。「物流から製造を引っ張る」「物流で社会変革を起こす」という意識をもって取り組むべきである。

■ ダイアログを終えて

今回、さまざまな意見を頂戴し、消費者と一体となった仕組みづくり、仕掛けづくりに大きな期待が寄せられていると感じました。

物流事業者の使命として、社会の一員として社会に貢献できるよう取り組んでいきたいと考えています。

第4回SAGAWAステークホルダー・ダイアログの内容は、SGホールディングスウェブサイトでもご覧いただけます。



「すべてのお客さまに笑顔で喜んでいただける」セールスドライバーを目指しています!

佐川急便 京都南店 高木克臣



お客さまに向けて

お客さまのニーズに応えられるよう、高品質・高付加価値のサービス提供に努め、良きパートナーとして信頼される関係を目指しています。

「宅配便エコポイント」で消費者参加型のグリーン物流を推進

佐川急便では、宅配便エコポイント制度を活用し、「『eco(いいこ)とあるよ・・・』1回目!1回で受け取ることがecoなんですキャンペーン!!」と題し、お客さまと一緒に取り組むキャンペーンを展開しました。

このキャンペーンは、国民運動「1人、1日、1kgCO₂削減応援キャンペーン」の協賛企業として行ったもので、再配達にかかる環境負荷を減らすための取り組みです。お荷物を1回目の配達で受け取っていただくことにより、不在再配達が発生せず、余分なCO₂排出を抑制することができます。このことをお客さまにもご理解いただき、環境活動に参加していただくことがキャンペーンの目的でもあります。

初回配達時でお受け取りいただければ3ポイント、再配達1回なら1ポイントを進呈し、貯めたポイントで景品と交換できる仕組みです。

今後も、お客さまが環境活動を行うためのきっかけとなるようなサービスを開発し、積極的に提供していきたいと考えています。

●キャンペーンの流れ

①事前にカードを入手



私のチャレンジ宣言カード
<http://www.team-6.jp/>



スタンプラリーカード
<http://www.sagawa-exp.co.jp/>

②配達時にカードを提示

初回配達時：3ポイント
2回目：1ポイント



めざせ! 1人、1日、1kg CO₂削減



Voice

佐川急便「宅配便エコポイント」へのコメント

「愛・地球博」では、レジ袋を断るなどの環境に配慮した行動に対し、ポイントを付与し、これを貯めてエコ商品との交換や植樹に寄付する「EXPOエコマネー」が成功を収めました。このシステムをグリーン物流に活用できないかという問題意識で「グリーン物流とエコポイント研究会」を開催し、私はその事務局を担当しました。その中で、「宅配便エコポイント」を提案させていただいたのですが、今回、佐川急便がキャンペーンを行ったことは時機を得たものだと思います。宅配便エコポイントは、消費者にメリットを付与しながら、環境負荷を低減させるものであり、今後も、改良を重ねながら、末永い実施が期待されます。

経済産業省 産業技術環境局
環境指導室長 中村吉明 様



「CO₂ 排出権付き飛脚宅配便」の開発・商品化

佐川急便は、宅配便を通じて地球温暖化防止に貢献する「CO₂ 排出権付き飛脚宅配便」を開発・商品化しました。これは、お客さまが通信販売などで商品を購入して宅配便を利用する際に、CO₂ 排出権付き飛脚宅配便を選択いただくことでご利用いただけます。通常の配送料に付加料金を加えた料金を負担いただき、佐川急便も同等額を負担します。そして、佐川急便が保有するCO₂ 排出権※の中から、その合計額分を、日本の温室効果ガス「マイナス6%」に移転します。

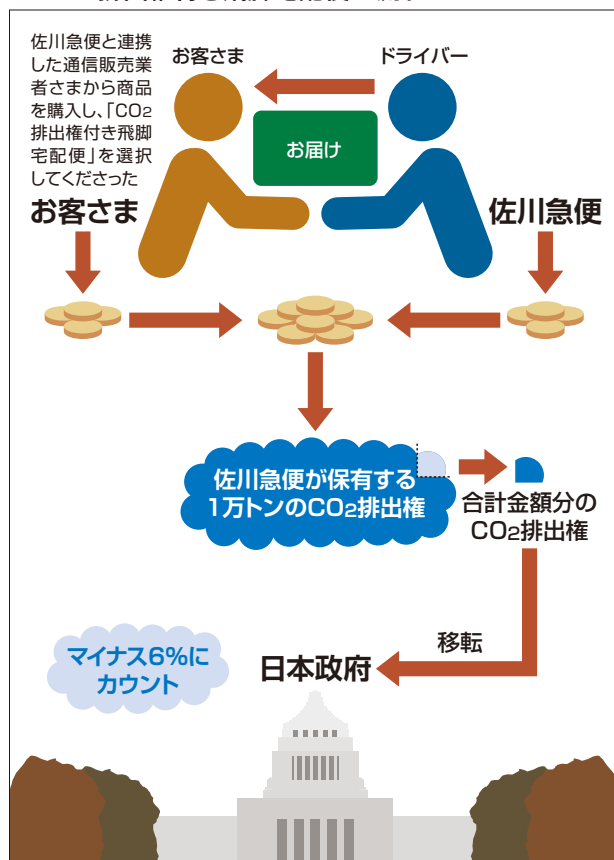
このサービスは、「マイナス6%」の国民運動に一般消費者の立場で貢献したいが方法がわからない、という声が多数あることを受けて、こうしたニーズに少しでもお応えしようと始めたサービスです。

また、本サービス開始に先立ち、2008年4月より「地球温暖化防止応援キャンペーン」を実施し、温室効果ガスの削減を呼びかけました。

※インドの風力発電プロジェクトによる排出権1万トンを購入。

2008年6月よりサービス開始を予定しており、掲載している情報は2008年4月現在の内容です。

● CO₂ 排出権付き飛脚宅配便の流れ



「大型家具・家電設置輸送」サービスの開始

佐川急便と佐川引越センターは、大型の家具と家電の配送、設置などを行う「大型家具・家電設置輸送」サービスを開始しました。これまで佐川急便では、大型の家具・家電の輸送には、荷受人さまのエリアを担当する営業店まで輸送し、そこからチャーター（貸切）輸送をすることで対応してきましたが、急速に普及するインターネットによって事業を拡大される通信販売事業者さまより、多くのご要望を頂戴していました。

そこで、きめ細かい対応と高い輸送品質をお客さまにご提供できるよう、当グループの輸送ネットワークと事業特性を活かしたサービスを開発しました。

また、このサービスは、従来より佐川急便がご提供している、お荷物の輸送状況照会や代金引換サービス「e-コレクト」が利用できるなど、通信販売事業者さまだけでなく、商品を購入されたお客さまにもお喜びいただけるサービスとなっています。



設置後のテレビの設定や配線作業も有料で引き受けます

会社と社員の皆さまを支える『縁の下の力持ち』を目指して、がんばります。

佐川コンピューター・システム株式会社 総務部 山本真由実



佐川急便の代金引換サービス「e-コレクト」

従来のインターネットショッピングやカタログ販売などの支払い方法は、「銀行など金融機関へ事前振込み」や「インターネット上でクレジットカード決済をする」などが主な方法でした。そのため、利用者はカード情報の漏洩や、商品が届かないのではという不安がありました。

佐川急便の「e-コレクト」は、商品と代金を直接引き換える代金引換サービスで、専用の決済端末機を利用するためセキュリティ対策も万全です。また、事前振込みと比べて手間もかからず、現金が手元になくてもクレジットカードやキャッシュカードで支払いが可能ことから、インターネットショッピングやカタログ販売を利用されるお客さまから大変ご好評をいただいています。2007年度は約9,400万個、およそ1兆1,200億円の決済にご利用いただきました。



セキュリティも万全です

■進化する「e-コレクト」

「e-コレクト」は、お客さまの利便性やご要望にお応えすることで、ますます進化するサービスです。決済方法の一つであるクレジットカードは、2008年3月現在合計19ブランドのお取り扱いが可能です。

●ご利用いただけるクレジットカード



また、業界初となる電子マネーによる決済を2007年7月より開始し、東京23区と名古屋市内で後払い方式の「クイックペイ」がご利用いただけるようになりました。

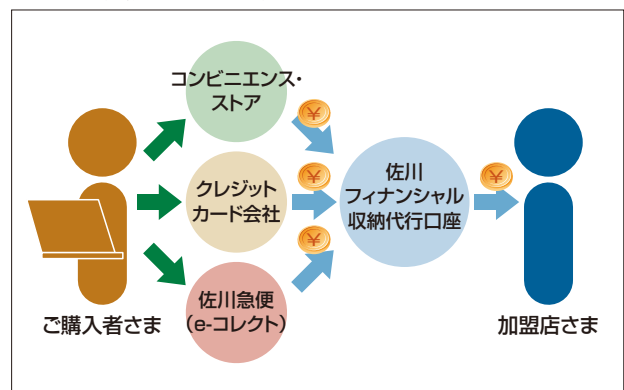
「e-コレクト」は、「現金」「クレジットカード」「デビットカード」「電子マネー」と選択肢を広げ、時代のニーズに的確に対応し、社会インフラとしての役割を担っています。

■通販事業者向け決済代行「ネット決済サービス」を提供

インターネット上のクレジットカード決済、コンビニオンライン決済、コンビニ振込み票決済を包括的に提供する、「ネット決済サービス」を2008年4月より開始しました。

「ネット決済サービス」は、ネットショップ運営に不可欠な決済システムの提供、および売上代金の収納代行を行うサービスで、ご購入者さまの多様な支払いニーズに対応。さらに、入金消込や精算などの代金収納に伴う、さまざまな業務を一括で行えます。煩雑な業務を一元化し、簡単、便利、効率的なネットショップ運営をサポートします。

●ネット決済サービス概要フロー図



■セキュリティ関連サービスの提供

インターネットの普及に伴い、カードによる犯罪やオークションを利用した犯罪などが急増していることから、商品のお届けの際にもセキュリティの強化と安全な取引環境の確立が求められています。

佐川急便では、受取人さまを確実に特定できる業界初のサービス「受取人確認配達サービス」を開始しました。配達時に公的証書によるお名前の照合と、あらかじめ決められているパスワードをe-コレクト決済端末機で照合することにより、二重のセキュリティを確保し、より安全にサービスをご利用いただける環境を提供しています。

また、「受取人確認配達サービス」のセキュリティをさらに強化することで、2008年3月1日に施行された犯罪収益移転防止法に対応した「クレジットカード配送サービス」を開発（2008年4月21日より取扱開始）しました。これにより、高いセキュリティが要求される重要な商品の取り扱いにも対応でき、利用者さま・カード会社さま双方にとって安全で快適なサービスとしてご利用いただけます。

心のこもった電話応対を目指して

佐川急便では、会社の代表としてお客さまと接する「電話応対」を第二の営業と位置付け、すべての電話で心のこもった応対を実践し、お客さまとの信頼関係を築けるよう、電話応対品質の向上に努めています。

■佐川急便カスタマーサービスコンテストの開催

佐川急便では、電話応対技術の向上を目指し、2001年から社内電話応対コンクールを実施しています。2007年度からは電話応対スキルだけでなく、顧客対応スキル向上を目指す大会に一新しました。電話応対では、お客さまとお互いの顔が見えないため、適切・迅速・誠意ある対応が求められます。本コンテストは、「お客さまから『ありがとう』と言われてもらえる電話応対」というテーマで、全国各地区・ブロックを代表する9チームで「顧客対応力」を競い合いました。



2人1組のチームで競います

■電話応対コンクールでの活躍

2007年11月、(財)日本電信電話ユーザ協会が主催する「第46回電話応対(CTI)コンクール全国大会」が開催され、全国7,960名の中から選ばれた57名が参加し、「顧客満足度」を競いました。佐川急便からは7名が各都道府県の代表として出場し、高知店の社員が準優勝、徳島店の社員が優秀賞(3位相当)を受賞しました。

今後も、大会で得た経験や商品知識力を日々の業務に活かし、これまで以上にお客さまに喜ばれるサービス品質の提供に努めていきます。



日頃の努力が実を結びました



つねに笑顔を忘れません

環境ロジスティクスセミナーの開催

環境に対する関心が高まる中、荷主企業さまと物流事業者のパートナーシップが今まで以上に重要になると考え、お取引先や荷主企業さまを対象に、環境問題・グリーン物流に関する情報提供を行う「佐川急便 環境ロジスティクスセミナー」を開催しました。

当日は、特定荷主※の企業さまを約100名お招きし、国土交通省より地球温暖化対策について講演いただいた

他、当グループの環境経営についても、「物流の効率化」「改正省エネ法への対応」「CO₂排出権付き飛脚宅配便」など具体的な事例を挙げて説明を行いました。

※年間輸送量が3,000万トンキロを超え、改正省エネ法により輸送における省エネ計画およびエネルギー使用状況の定期報告が義務付けられている荷主



セミナーの様子

品質向上への取り組み

■ISO9001の取得

佐川急便では、お客さまに満足いただけるサービスの提供を目指して、お客さまのニーズに的確にお応えできるサービス品質の管理を実施しています。2008年5月現在、品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001:2000の認証を377の事業所で取得しており、輸送サービスに関連するプロセスの継続的な改善に取り組んでいます。



ISO9001 適合証明証

■クオリティマークの認定

佐川急便独自の品質管理として、「クオリティマーク」の認定を行っています。これは、お客さまのニーズに的確にお応えするためのサービス品質管理で、時間帯サービスの履行率や不在再配達率の履行率など11項目の基準を設けて審査を行い、2007年度は20の営業店が認定されました。今後も、ISO9001およびクオリティマークの取り組みによって、お客さまのニーズに的確にお応えできるサービス品質の維持・改善に努めていきます。



クオリティマーク



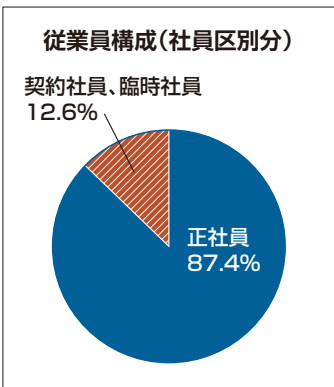
従業員とともに

働く人々の尊厳を守り、平等に機会を与え、一人ひとりの多彩な能力を伸ばす人材育成を推進し、従業員とともに成長する企業でありたいと考えます。

労働力の内訳

情報通信技術がどんなに高度化しても、人から人の手を介してお客さまの大切なお荷物を運ぶ宅配便事業。佐川急便では、荷物を運ぶ担い手である従業員を何にも代え難い大切な「人財」と考えています。長期・安定雇用によりプロ意識を芽生えさせ、仕事の成果を上げ、会社に対する「ロイヤリティ」をもって働き甲斐を感じてもらうために、全従業員の87.4%が正社員として活躍しています。

●労働力の内訳グラフ



女性従業員の活躍支援

多様な個性を持った従業員全員が個々の能力を十分に発揮できる場を提供することが、将来を見据えた労働力確保のための企業戦略と考え、性別、年齢にとらわれず、さまざまな職域での採用を積極的に行っています。その中でも、女性従業員の採用率は前年比171%と大幅な伸びを見せており、さまざまな職場で女性が活躍しています。職種別では、事務職の3,602名が最も多く、次いでドライバー職が1,536名、管理職で活躍している女性社員もいます。単に女性従業員を増やすだけでなく、しっかりと育成し、能力

雇用の促進

佐川急便の障がい者雇用率は、2007年度も1.83%と法定雇用率を達成しています。他の企業との大きな違いは、特定法人での集約雇用ではなく、健常者と同じ職場で働くことです。同じ職場で一緒に業務に取り組み、互いに苦勞を分かち合い、目標達成の喜びを共有することを通じて、真の意味で「障がい者の自立につながる」という考えをもって取り組んでいます。


今後もこのポリシーに基づき、ともに成長できる雇用促進への取り組みを進めていきます。

開発を視野に入れた中で、管理職への登用を積極的に推進しています。

また、育児休業の取得から復帰後の就業促進、託児所の利用促進など仕事と育児の両立を高める施策も進めており、出産後に職場復帰して活躍している女性従業員も多くなります。

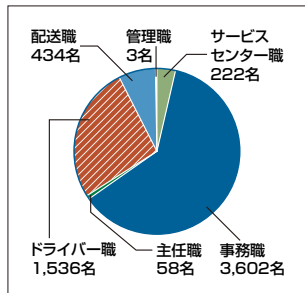
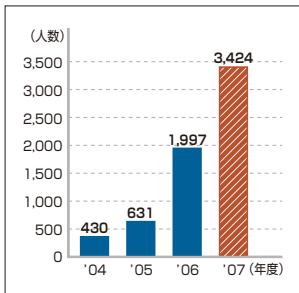
Voice 全国初の女性営業課係長として日々、責任の重さを感じています

係長になって一番強く感じたのは、その責任の重さです。朝礼での挨拶も、今までよりも慎重に言葉を選んで話さなければいけません。このことは先輩の係長の皆さんに日々ご指導いただいています。うれしかったのは、店長の「女性だからという扱いはしない」という言葉。その言葉どおりの厳しい指導の下、管理者として成長していきます。



福岡店 営業課 係長 大西 由希子

●女性従業員入社人数の推移 ●女性従業員職種別内訳



人材育成・研修制度

佐川急便では、教育研修を通じて仕事に対するやりがいと自己の成長を全従業員に感じてもらうため、さまざまな全国統一の教育体系を整備しています。

今後はさらに、より良い人材育成を行うためにも、教育研修を修了した者の成果や成長を数値化して測定する仕組みの構築を目指します。



研修のようす

● 2007年度研修実績

	研修名称	人数
1	新入社員基礎研修	7,231
2	安全運転基礎研修	5,777
3	SD独り立ち認定研修	4,581
4	CS基礎実務研修	1,232
5	CS独り立ち認定研修	665
6	CS指導員認定研修	139
7	SD指導員認定研修	2,594
8	安全運転検定員認定研修	418
9	安全管理者専任時研修	487
10	宅配指導者養成研修	782
11	営業強化研修	1,782
12	営業強化研修フォローアップ研修	326
13	指導力開発研修	512
14	管理職実務講座	1,526
15	リーダーシップ研修	349
16	店長初任研修	51
合計(のべ)		28,452

安全な職場の構築

SGホールディングスでは、すべての従業員が安全で安心して働くことができる職場環境の確立を目指しています。2007年度、佐川急便では労働災害の未然防止施策の一環として、運転職・サービスセンター職・配送職を対象に、安全靴の支給を行い、その結果、脚部全般にかかわる被災を前年に比べて減少させることができました。

全般的に労働災害発生率は減少傾向にあり、従業員の安全に対する意識の向上が図れた結果だと考えています。

従業員が最大限に能力を発揮するためには、働きやすい職場づくりが必要不可欠です。従業員や家族の幸せ、お客さまへのサービス品質向上の観点からも重要な課題であるため、今後も企業の財産である従業員への安全衛生対策の強化に取り組み、安全が確保された安心できる職場の提供に努めます。



「ストップ・ザ・社外劣災!」ポスター

心と体の健康管理

■健康への意識づくり

忙しい毎日に追われて、おろそかになりがち心と体の健康管理について、さまざまな媒体を通して従業員に意識づくりを呼びかけています。

中でも、毎月発行される社内報「HIKYAKU」には、「飛脚の元気街道」コーナーを設け、食中毒や腰痛、インフルエンザや花粉症の予防法など、健康管理に関するさまざまな情報を掲載しています。特に、一日中屋外で作業を行うセールスドライバーにとって、夏の暑さは大敵です。そこで夏の暑さに負けない体づくりのための特集を組むなど、健康管理に注意を呼びかけています。

■メンタルヘルスケアの促進

従業員とその配偶者・扶養家族を対象に「SGホールディングスグループ健康ダイヤル24」を開設しています。

外部の専門機関による相談窓口を設け、健康・医療・介護・育児相談や医療機関情報の提供といった家庭生活相談から、仕事や人間関係などの悩み・ストレスなどの「こころの相談」まで、専門家が24時間対応し、匿名での依頼も受け付けています。

2008年4月からは、さらなるサポートの充実を図るため、電話・面談によるカウンセリング時間の延長の他、社員・家族専用Webサイトにおける24時間対応の相談窓口を設けています。



「健康ダイヤル24」ポスター

いつも人と環境にやさしい、施設展開を心掛けています。

SGリアルティ株式会社 業務部 正木俊也



■ SGホールディングスグループ スポーツフェスティバルの開催

社員がいきいきと働くためには家族の理解・協力が重要であり、社員だけでなく家族も含めた全体でSGホールディングスグループが成り立っていると考えています。そこで、社員、家族の親睦を図るため、グループ各社または事業所、地域ごとにさまざまなイベントを開催しています。

中でも、毎年5月の初旬に開催している「SGホールディングスグループ スポーツフェスティバル (SSF)」は、グループを挙げての一大イベントとして、全国から社員と家族が滋賀県守山市にある保養施設「守山パーク」に集結し、スポーツやイベントを通じて親睦を深めています。



■ クラブ活動

佐川急便は、芸術やスポーツへの支援、子どもたちの教育支援などに、地域社会と協力しながら取り組んでいます。

スポーツの振興と健全な体づくりを目指し、さまざまなクラブ活動を支援しています。

佐川急便陸上競技部



毎年元旦に行われる全日本実業団駅伝に13年連続で出場を果たしています。またアトランタオリンピックでは、マラソン代表に2名選出されました。マラソン選手が多い中、2007年8、9月の世界陸上大阪大会に、谷井孝行と谷内雄亮の両選手が競歩部門で見事、出場を果たしました。

■ 厚生施設の提供

従業員が心身ともにリフレッシュできる施設として、国内外に厚生施設および契約リゾート施設を提供しており、従業員家族のコミュニケーションに活用されています。

● 主な厚生施設



レークさがわ

日本一大きな湖・琵琶湖の東岸を望む「レークさがわ」は、豊かな自然と開放的な風景を楽しめ、守山パークにも隣接し、心身ともにリフレッシュできます。



熱海さがわ荘

日本有数の保養地・熱海にある「熱海さがわ荘」は、太平洋の大きく輝く波と豪快な風わたる海岸沿いに位置し、日常から解放されたリフレッシュ体験を堪能できます。



佐川急便守山陸上競技場

滋賀県守山市にある守山パークには、陸上競技場、野球場3面、ソフトボール場、人工芝サッカー場、体育館、室内プールを備え、社員をはじめ地域の方にもご利用いただいています。

SAGAWA SHIGA FC



日本フットボールリーグ (JFL) 所属。2007年度は、初のJFL優勝を果たしました。今後も、青少年育成のためにサッカースクールを開校するなど、リーグ連覇を目指しながら、本拠地の滋賀県において地域に愛されるチームづくりを進めています。

佐川急便ソフトボール部



2005年度から日本女子ソフトボールリーグに参加し、優勝して2部昇格を果たすと、2006年度は2部でも優勝。2007年度は強豪揃いの1部リーグで激闘を繰り広げ、初参加で8位になりました。2008年度はさらなるチーム強化を図り、リーグ6位を目指します。

社員・家族専用 Web サイト

SGホールディングスグループの全社員、そして家族が、心も体も健康でいることこそが、グループの事業基盤を支える最も重要な事項のひとつだと考えています。SGホールディングスグループでは、専用ホームページ「SGホールディングスグループ 社員・家族向けサイト」を運営し、健康相談や職場環境における悩み相談などの各種相談窓口や、全国の保養所・リゾート情報、各種ライフサポート情報などを掲載し、社員とその家族が心も体も豊かな生活を送れるようにサポートしています。



グループ力を高める「家族の愛」

「佐川急便のセールスドライバーの仕事を知りたい」という社員の家族の声にこたえて、会社参観を行いました。参加した子どもたちからは「お父さんみたいになりたい!」という声や、奥さまからは「お客さまの荷物を預かる大変な仕事だとわかりました」という感想をいただきました。

佐川急便には、親子や兄弟で働く従業員も多く、お互いを理解、尊敬し合う温かい気持ちが、グループを支える元気の源になっています。



荷降ろしのお手伝い



社員表彰制度

SGホールディングスグループでは、グループの活性化と社員のモチベーション向上を目的に、グループ社員（個人）、佐川急便営業店（グループ）を対象に、グループ合同表彰式を開催しています。

この制度は、優れた業績を収めた社員と、年間を通じて業績・品質・安全の向上に努め、優秀な成績を収めた営業店が表彰される制度で、当グループの財産として称えています。

受賞した社員や営業店はさらなるレベルアップに努め、また、受賞を目指す社員や営業店は追いつき追いつき越す気持ちを持つようになり、良い相乗効果が生まれています。



地域社会とともに

良き企業市民としての責任を果たし、豊かで健康な生活、安心できる社会の実現に向け、地域社会との共生に取り組んでいます。

小学生の職場体験学習に協力

フューチャー イノベーション フォーラム (FIF) ※が主催する『「社会の最前線」見学～物流の最前線』に、佐川急便が協力しました。これは、“社会貢献”および“未来を担う子どもの創造力促進”に沿った活動の一環です。2008年3月には、「セールスドライバーの仕事を一身体験学習」と題し、小学5、6年生20名が宅配便の流れや物流現場について学び、実際に集配業務を体験しました。

参加した子どもたちは、佐川急便のユニフォームに身をつつみ、見た



荷物の計測

目も元気の良さもすっかり佐川急便の一員になっていました。今回の職場体験学習を通して、社会を支える物流の大切さや、「はたらくこと」の意味を感じてもらえたと思います。

今後も、未来を担う子どもたちに、私たちが伝えられることをしっかりと伝えていきたいと考えています。

※ FIF は、IT イノベーションの成果である最先端技術を、広く社会の発展に活かす場として、2006年1月1日に設立された団体です。



荷物のお預かり

物流センターの見学

産学連携 (ホスピタル・ロジスティクス) への取り組み

佐川急便では、東京大学医学部附属病院22世紀医療センター内に、寄付講座「ホスピタル・ロジスティクス」を開設しています。この講座は、病院に必要な医薬品や医療材料の調達・供給方法と、患者の利便性向上のための物流サービスについて研究を行っています。



病院物流を考えるシンポジウム

■病院物流の新サービスを試験的に導入

病院サービスの向上を目指す「手ぶら入退院パック」や、退院患者や通院患者の医薬品全般を効率的にサポートする、「お薬宅配パック」などの新たな物流サービスを、寄付講座と共同開発し、2005年より東京大学医学部附属病院で試行しています。

■病院物流を考えるシンポジウムの共催

3年間の研究活動の報告や、病院物流の今後についての情報交換の場として、2007年12月には、「病院物流の最新動向と将来」をテーマに寄付講座と共同でシンポジウムを開催しました。病院経営、医療情報、病院設計、物流など、各分野の専門家の方々が参加し、病院物流について多角的な意見が交わされました。

今後も、寄付講座と協力し効率的なネットワークの構築を目指し、医療材料の供給や患者の利便性を高める物流サービスを提供できるよう取り組んでいきます。

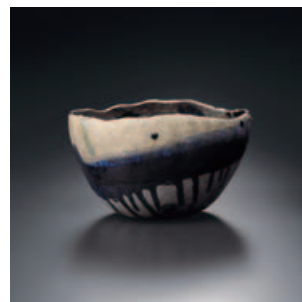
「佐川美術館 樂吉左衛門館」オープン

佐川急便創業50周年記念事業の一環として、建設が進められていた「佐川美術館 樂吉左衛門館」が2007年9月に開館しました。

「樂吉左衛門館」は佐川美術館の第三の館として、佐川急便が創業の地とする京都で、茶道を担う千家十職のうち、陶工として400年余りの伝統を守り続けてきた名門樂家の十五代樂吉左衛門氏の工芸品を展示しています。



樂吉左衛門館



焼貫黒樂茶碗 銘 海市

スポーツイベント等への協賛

■サガワ カマモト ジュニアカップ モリヤマ2007

少年サッカーの交流と技術向上を目的として、第1回から協賛しているこの催しは、今年で11回目を迎えました。

今大会は24チーム、500名の子どもたちが参加し、大人顔負けのハイレベルな試合が繰り広げられました。



白熱した試合が展開されました

■講演活動への取り組み

環境を考える経済人の会21 (B-LIFE21) が主催する寄付講座が、2007年度は法政大学で行われ、SGホールディングス代表取締役会長兼社長の栗和田榮一が講師を務めました。約400名が受講する中、クライメート・セイバーズ・プログラムをはじめとした佐川急便の環境経営について紹介しました。



講義のようす

■ゴールデン・ルーキー賞

日本プロ野球で最も活躍した新人選手に贈られるゴールデン・ルーキー賞に、2002年から協賛しています。本賞はプロ野球の最優秀新人賞を表彰するもので、受賞選手には、(財)佐川美術館ともゆかりの深い、彫刻家の佐藤忠良氏制作のブロンズ像「萌える」が贈られます。

■佐川急便杯第53回アマチュア本因坊決定戦全国大会

この大会は、全都道府県代表や学生代表、女性代表などが参加し、囲碁のアマチュア棋士日本一を決める大会で、2004年から協賛しています。

Topic

北京オリンピック日本代表選手団 応援プロジェクトの展開

佐川急便は、JOCと共同で北京オリンピックに出場する日本代表選手団を応援するプロジェクトを実施。2008年1月には福原愛選手らをゲストに迎え、「日本応援団ロゴ」シールを貼った自社トラックの出発式を開催しました。



■ (財) 佐川留学生奨学会

<http://www.sagawa-ryugakusei.or.jp/>

佐川急便創業30周年記念事業の一環として、1986年2月に設立され、東南アジア諸国からの私費留学生を対象に奨学金援助を行い、日本と東南アジア諸国との国際交流・友好親善を目的として、奨学金支給事業を行っています。当初8名から始まった奨学生も設立3年目より、16名の留学生を奨学生として採用し、1名につき月額10万円の奨学金を2年間支給。夢を叶えるため日本留学を決意した留学生に経済的支援を行い、現在では、交流活動にも力を入れ精神的なサポートと奨学生同士の友情と絆を大切にしています。

2007年度(累計)
奨学金支給人数34名(345名)
奨学金支給金額4,020万円(7億6,590万円)



■ (財) 佐川国際経済協力会

<http://www.sagawa-kokusaikeizai.or.jp/>

1986年10月に設立され、中国をはじめとした開発途上国と日本の友好親善を目的として、中古トラックの寄贈と車両整備技術研修生の受け入れ事業を行っています。2007年2月に中古トラックの寄贈事業に対し、ラオス人民民主共和国から国家勲章を授与された他、11月には同国のソマード公共事業大臣が訪日され、佐川急便「Tokyoビッグベイ」などを視察されました。また、第18回目となる佐川日中友好車両整備技術研修では、6名の研修生を迎え、日本の車両整備業務の包括的習得に向けた研修を実施しました。

2007年度(累計)
中古トラック寄贈台数8台(3,297台)
車両整備研修生受入数6名(102名)



■ (財) 佐川がん研究助成振興財団

<http://www.sagawa-gan.or.jp/>

1989年2月に設立され、日本人の死亡原因第1位であるがんの基礎研究や応用治療研究などの活動を助成し、医療福祉の向上に寄与することを目的として、研究助成金支給、研究助成賞の授与、がんの予防啓発や自らの健康を守るための正しい知識の一般市民に対する普及事業を行っています。2002年度より毎年「がん市民公開講座」を開催しており、2007年度は「府民とともに考える京都のがん医療」をテーマに京都市内の会場で開催し、約700名が来場されました。

2007年度(累計)
研究助成件数15件(316件)
研究助成金額1,500万円(3億900万円)
特別研究助成件数4件(19件)
特別研究助成金額1,200万円(5,900万円)



■ (財) 佐川美術館

<http://www.sagawa-artmuseum.or.jp/>

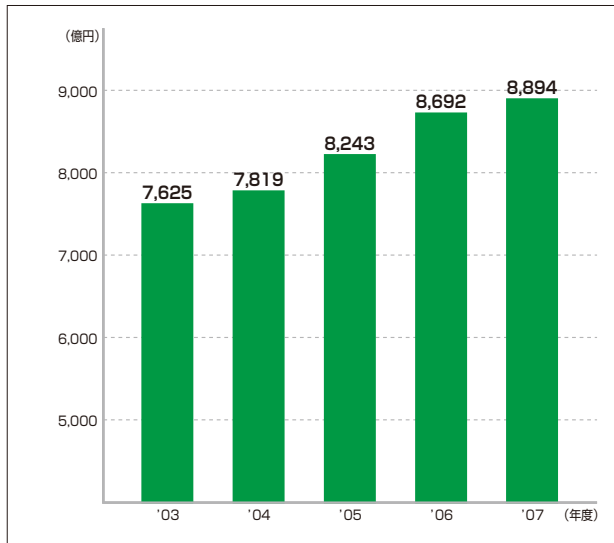
佐川急便創業40周年記念事業の一環として、1998年3月、琵琶湖を望む守山パーク(滋賀県守山市)に開館しました。日本を代表する日本画家の平山郁夫先生、彫刻家の佐藤忠良先生の作品を中心に展示する他、特別展を開催し、東西文化の交流をテーマに、海外も含めた貴重な美術品を数多く紹介しています。2007年度は「楽吉左衛門館」が新しく開館した他(P53)、新収蔵品公開記念展「平山郁夫大唐西域画」(3/20～6/17)、特別展「広重二大街道浮世絵展」(4/21～5/27)を開催。さらに「琵琶湖の原風景をもとめて—ブライアンのまなざし—」(7/21～9/2)ではWWFジャパンの後援をいただき、芸術と自然保護の共通点が見出せた特別展となりました。また、子どもたちへの教育普及活動の一環として、小中学生と同伴保護者の方の入館料を無料にする「びじゅつかんでなつやすみ」を実施しました。

2007年度来館者数(累計)
127,517名(774,655名)

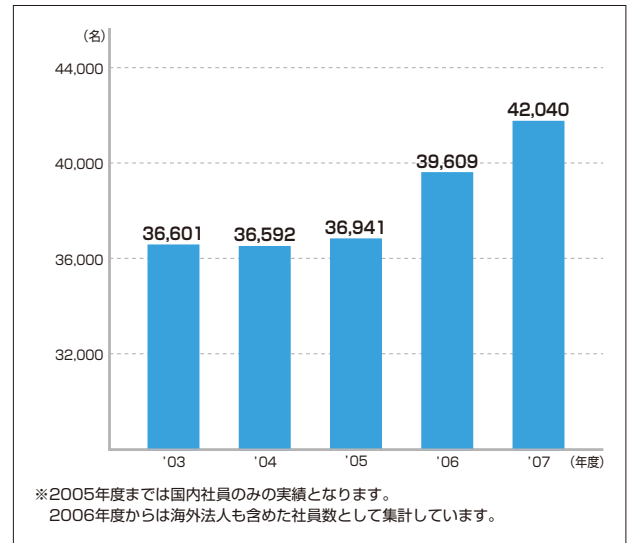


SGホールディングスグループ事業データ

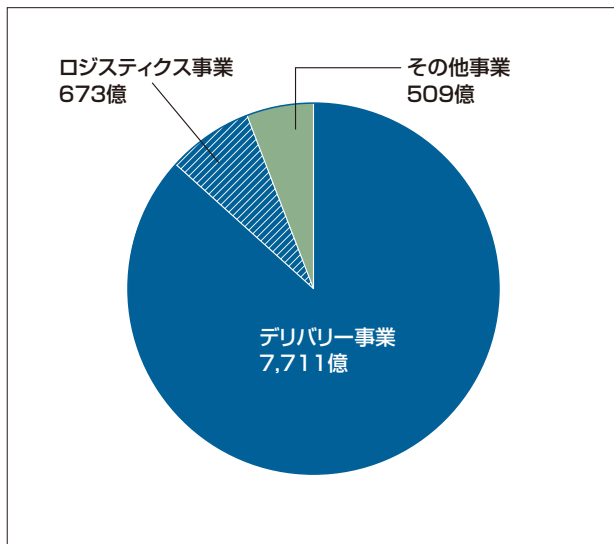
売上高 (連結)



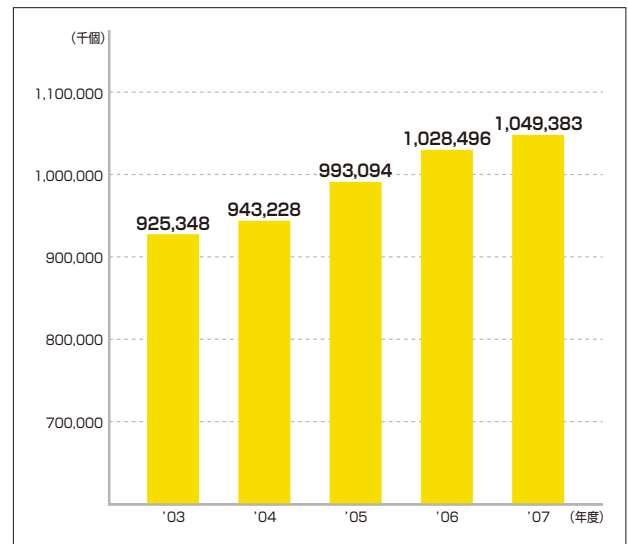
社員数 (連結)



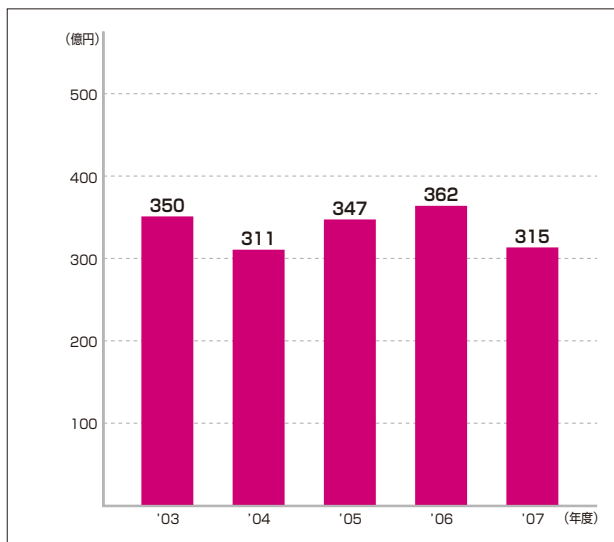
売上高構成 (連結)



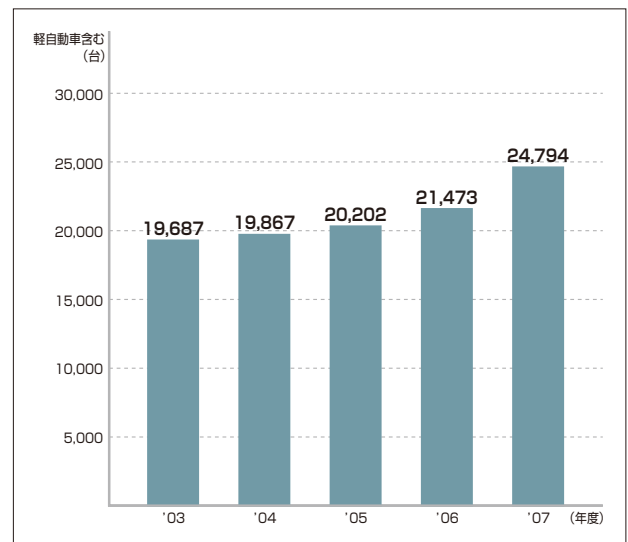
宅配便取扱個数 (佐川急便)



経常利益 (連結)



保有車両台数 (佐川急便)



※ 2003年度から2007年度における各種実績を掲載しています。
※ 社員数、保有車両台数、営業店数については、3月20日時点の数値を年度実績として掲載しています。

独立した第三者保証報告書

佐川急便株式会社
代表取締役社長 栗和田 榮一 殿

2008年6月2日

1. 保証の対象と目的

株式会社あらたサステナビリティ認証機構（以下、「当社」という。）は、佐川急便株式会社（以下、「会社」という。）からの委嘱に基づき、会社と財団法人世界自然保護基金ジャパン（以下、「WWF」という。）との間で締結された「クライメート・セイバーズに係る覚書」（以下、「覚書」という）に基づき、会社が算定した2007年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度に関して保証業務を行なった。保証業務の目的は、SGホールディングス株式会社が作成した「環境・社会報告書2008」（以下、「同レポート」）に記載されている会社の2007年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度を対象に、「覚書」並びに会社の方針及び基準を基準として、以下の点について独立の立場から結論を表明することである。

- 同レポートに記載されている会社の2007年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度（同レポートP28）が、「覚書」並びに会社の方針及び基準（同レポートP27,28）に従って、重要な点において収集、報告されているかどうか。

同レポートに記載されている会社の2007年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度は、会社の責任のもとに作成されたものであり、当社の責任は独立の立場から結論を表明することにある。

2. 実施した保証手続の概要

当社は、「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務（ISAE3000）」（2003年12月改訂 国際会計士連盟）、「環境報告書審査基準(案)」（2004年3月公表 環境省）及び「サステナビリティ情報審査実務指針」（2008年2月改訂 有限責任中間法人サステナビリティ情報審査協会）に準拠して業務を行なった。本業務はこれらの基準に基づき限定的な保証を提供するものである。また、本業務は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠した監査ではなく、従って監査意見を表明するものではない。

保証業務において行った手続の概要は以下のとおりである。

- 会社の全般的状況及び2007年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度のマネジメントに関する本社における資料の閲覧、質問
- 同レポートに記載されている保証対象に関する、会社の方針及び基準の設定と運用の状況に関する本社及びサイトにおける質問
- 保証対象を測定、集計、報告する方法に関する本社及びサイトにおける資料の閲覧、質問
- 保証対象について本社及びサイトにおけるサンプリングしたデータと根拠資料の証憑突合、各根拠資料間の整合性の評価、分析の手続

- 選定した往査サイト

サイト名	主な機能
佐川急便株式会社 本社 東京本部 総務部環境推進課	本社機能
同 本社 東京本部 財務経理部経理課	東日本地区 担当

なお、手続を実施した会社の2007年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度に関する記載情報については、同レポートの該当箇所に以下のマークを 付している。

3. 結論

当社の結論は、以下のとおりである。

- 同レポートに記載されている会社の2007年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度が「覚書」並びに会社の方針及び基準に従って収集、報告されていないと認められる重要な事項は、当社が実施した手続の範囲では発見されなかった。

4. 独立性

会社と当社の間には、「環境報告書審査基準(案)」、「サステナビリティ情報審査実務指針」及び公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

株式会社あらたサステナビリティ認証機構



東京都港区芝浦四丁目2番8号
住友不動産三田ツインビル東館

代表取締役社長

山手章

【第三者意見】

環境破壊や資源枯渇化など地球の限界が露になった今世紀、企業は株主モデルの追求だけでは生き残ることができません。企業を取り巻くステークホルダーをより広く解釈すれば、消費者、さらに国民そのものです。消費者、国民に必要とされる企業だけが存続を許される時代がきています。そのためには、なによりもまず企業理念をはっきり打ち出し、「わが社の存在理由」を明快に社会に伝える「見える化」努力が必要です。環境・社会報告書はそのための有力な手段です。

このような視点でみると、今年の報告書は、トップメッセージとして「すべてのステークホルダーから選ばれる企業」を目指すことが語られており、そのためにステークホルダー会議を毎年続けている点は評価できます。経営トップの顔がもっと見えるように身近な体験談などを交えたメッセージにすると、もっと親しみやすくなるでしょう。

環境対策は、単に経営の効率化を促進させるだけではなく、輸送の安全、安心、さらに、社員のやる気、顧客の満足度の向上などその波及効果がどんどん広がる事例を立体的に構成して示してもらおうとさらに説得力が増すように思います。

一方、温暖化防止対策では、世界的環境NGOであるWWF（世界自然保護基金）と日本企業として最初に温室効果ガスの削減数値目標を設定（クライメート・セイバーズ・プログラム）し、2012年までに達成する約束を掲げ、努力している点は特筆に値します。



千葉商科大学
政策情報学部 教授
三橋規宏氏

【編集後記】

企業は社会との「つながり」の中で存在しています。地域社会との「つながり」、お客さまとの「つながり」、従業員との「つながり」……。私たちはその「つながり」を大切にして存続していきたいと常々考えています。私たちの「環境・社会報告書」は、その大切な「つながり」をさらに強固なものにするためのものであり、皆さまにご理解していただくことが最も大切であると考えています。

今回の報告書の企画にあたり、従来から心掛けている「わかりやすい表現」「親しみやすい表現」に加え、カラーユニバーサルデザイン*を取り入れることで、より多くの方々にご負担なく、読んでいただける報告書を目指しました。

この報告書を通じて、SGホールディングスグループの活動を皆さまに正しくご理解していただければ幸いです。今後も社会との「つながり」を大切にしながら、事業活動を邁進する当社グループであるため、皆さまの貴重なご意見・ご感想をお寄せいただきたく、宜しく願い申し上げます。

*色覚の個人差を問わず、出来るだけ多くの方に見やすいように配慮されたデザインです

SGホールディングス株式会社
CSR環境担当 一同



託していただいた 人生最後の贈り物。

Toshiharu Nishiguchi

西口 年春

(佐川グローバルロジスティクス 岡山事務所)

ある日、一本の電話が知人から入りました。「大至急、子ども用自転車をチャーター便で運んでほしい」とのこと。急いで集荷に向かった先は病院で、ベッドで横になっている男性のお客さまから、息子さんへの誕生日プレゼントとして届けてほしいと依頼されました。すぐに配達先へお伺いし、奥さまに「ご主人から息子さんへのお届けものです」とお渡しすると、奥さまはその場で泣き崩れました。お話を伺うと、ご主人は重病で余命宣告をされているとのお話で、「息子とすぐに病院へ行きたい」とおっしゃったのでタクシーを呼んであげました。病院に到着して2時間後に、家族に見守られながらご主人は昇天されたそうです。私は物流に携わる人間として、一つの家族の思いを運んであげることができ誇りに思えました。私たちが運んでいるもの、それはお金には決して換えることのできない、実際のモノ以上に大きくそして価値あるもの。そういう荷物を託すのに選んでいただける人間でありたいと思います。

私たちがお届け

花束とともにお届けした 娘さんの感謝の気持ち。

Ichiro Yasui

安井 一朗

(佐川急便 富山店)

毎年、母の日はたくさんの贈り物をお届けしますが、その日配達したのはとてつもなく大きな箱に入った豪華な花束でした。お受け取りになった女性の方は最初、あまりの大きさにびっくりされていましたが、離れて暮らす娘さんからだと知り、「こんなに大きなものを送ってきて…、ばかだねえ」と言いながら印鑑を押してくださいました。でも、印鑑を持つ手も声も震えておられたので、おそらく涙ぐまれていたのだと思います。私は、お母さんに対する娘さんの感謝の気持ちをお届けすることができたうれしさを実感しながら、ありがとうございましたと言ってそっとその場を後にしました。私たちが運んでいるもの、それはお荷物に込められた送り主さまの気持ちです。





思わず涙がにじんだ 「ありがとう」の言葉。

Yoshinori Iwai
岩井 義則
(佐川急便 岐阜店)

独り暮らしのおばあちゃんのお宅に、通販の家具調こたつを配達したところ、翌日に返品依頼があったため集荷に伺いました。返品理由を尋ねると「こたつの脚がうまく付かないから」とのこと。商品を見せていただくと、どうやらネジを逆にして取り付けられていたようで、私が代わりに取り付けるとうまく脚を付けることができました。その日は時間に余裕があったので、この際だからと全部組み立ててあげました。するととても喜んでいただき、「ありがとう、ありがとう」と何度もお礼を言われました。それを聞きながら、おばあちゃんの独り暮らしはたいへんだなとしみじみ感じて、涙がにじんできました。私たちが運んでいるもの、それはお客さまの気持ちだけではなく、私たちドライバーのお客さまに対する誠心誠意の気持ちです。これからもお客さまに喜んでいただけるよう少しでもお役に立ちたいと思っています。

しているもの



単身赴任のお父さんの 思いがこもった重さ。

Hirofumi Tonosaki
外崎 博史
(佐川急便 神戸店)

クリスマスイブの日でした。きれいにラッピングされたプレゼントらしいお荷物をお届けしたところ、小さな男の子が「お父さんからだ!」と喜びいっぱい受け取りました。奥さまに話を伺うと、単身赴任のため男の子はお父さんと年に一度しか会うことができないとのこと。それを聞き、このお荷物は実際の重量以上に重いお荷物だと感じました。そして、お届けしたクリスマスプレゼントを通して、この子とお父さんの気持ちを私たちがつないでいるんだなあと深く感動しました。私たちが運んでいるもの、それは荷物に込められたそれぞれの人の「思い」です。「思い」がたくさんつまっていると荷物も「重い」ものです。その重さをしっかり意識しながら、一つひとつの荷物を大切に扱っていきたいと思っています。



この報告書に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

〒601-8104 京都市南区上鳥羽角田町68番地

SGホールディングス株式会社
CSR環境担当

TEL 075-671-8600

<http://www.sg-hldgs.co.jp/>

タイトル 環境・社会報告書2008

発行日 2008年6月

次回発行予定 2009年6月

印刷 佐川印刷株式会社

本報告書は上記インターネットホームページでもご覧いただくことができます。



●色覚の個人差を問わず見やすいように配慮したデザインをしています。



●森林保全につながるFSC認証紙を使用しています。



●アメリカ大豆協会認定の大豆油インキで印刷しています。



●有機溶媒を含む湿し水を使わない水無し印刷をしています。

